

令和7年度
半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略
有識者会議 評価報告書
(案)

令和7年12月
半田市まち・ひと・しごと創生有識者会議

目 次

1. 半田市まち・ひと・しごと創生有識者会議・・・・・・・・・・	3 ページ
2. 評価制度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5 ページ
3. 評価の総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9 ページ
4. 総合評価（庁内評価含む）・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15 ページ
5. デジタル田園都市国家構想交付金対象事業の効果検証・・・・・・	75 ページ

1. 半田市まち・ひと・しごと創生有識者会議

(1) 半田市まち・ひと・しごと創生有識者会議について

半田市まち・ひと・しごと創生有識者会議（以下「有識者会議」という。）は、「半田市人口ビジョン」及び「第2期半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「総合戦略」という。）の策定及び推進のために設置されたものである。

総合戦略の推進にあたっては、人口減少への対応や地域経済の活性化に向けた今後5か年の基本目標を達成するため、PDCAサイクルを確立し、総合戦略に定める具体的施策を効果検証し、継続的な改善を図ることが重要である。

そこで、有識者会議では、基本目標の数値目標及び具体的な施策に係るKPIの達成度や具体的施策に係る各事業の効果を中心に検証し、提言等を行うことで、半田市の地方創生の推進を強力に支えていく。

(2) 有識者会議の構成委員

No.	分野	団体名等	氏 名
1	産業	株式会社 Mizkan Jplus Holdings 人事本部 総務部 部長	中村 秀樹
2	産業	名鉄観光サービス株式会社 営業戦略推進本部 地域活性化推進部 部長	福井 佳代
3	行政機関	愛知県観光コンベンション局 観光推進監	河治 豊弘
4	教育機関	日本福祉大学 准教授	◎鈴木 健司
5	教育機関	日本福祉大学 教授	松山 有美
6	教育機関	県立半田商業高等学校 校長	林 正也
7	金融機関	知多信用金庫 常務理事	岩橋 信也
8	労働団体	JFE スチール知多労働組合 執行委員長	福田 昌寛
9	マス メディア	元 NHK 記者、元半田記者クラブ所属	山本 幸太郎

◎委員長

2. 評価制度

(1) 評価制度

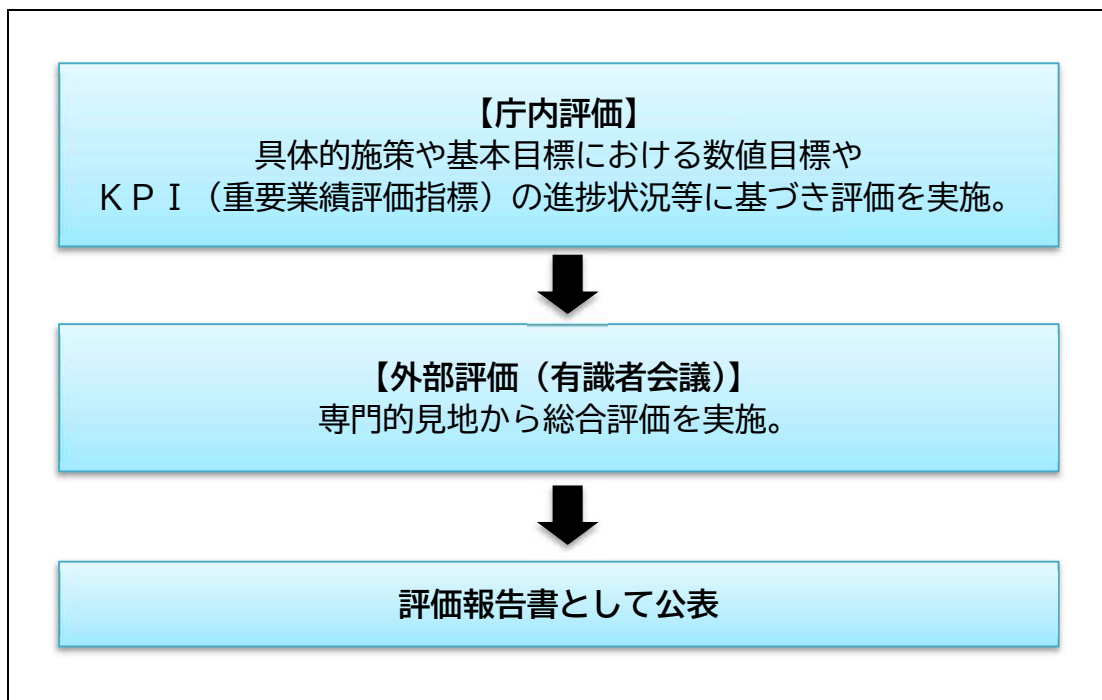
総合戦略は、2020 年度から 2024 年度までの5 か年計画である。総合戦略の推進にあたっては、P D C Aサイクルの確立に向けた評価制度を導入し、庁内評価のみならず、有識者会議による効果検証を実施する。

①目的

- 半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理の確保
- 外部有識者の参画による客観性のある質の高い効果検証の実現
- 行政の透明性の向上

②評価方法

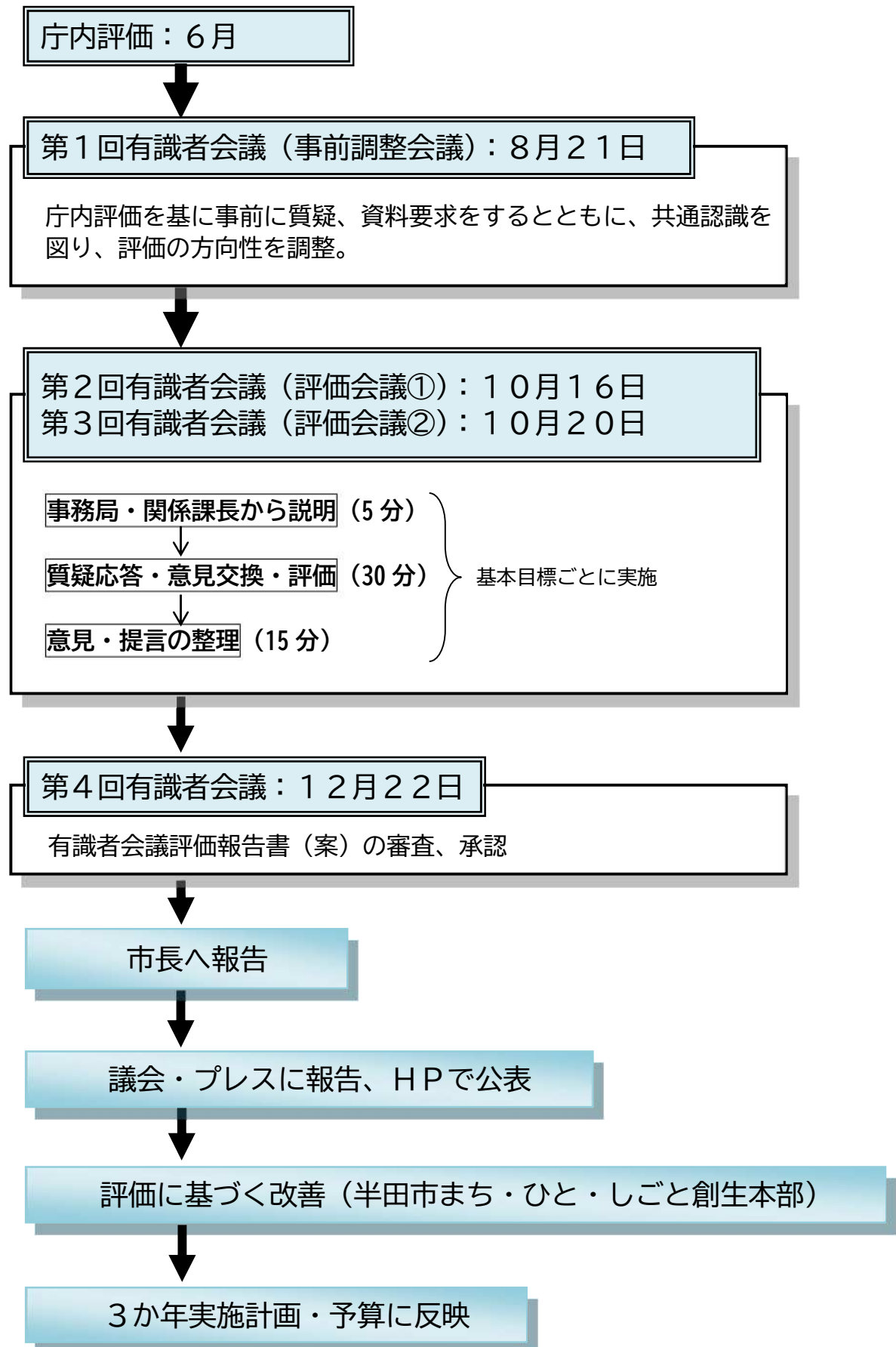
総合戦略には4つの基本目標が定められており、基本目標ごとに、毎年評価を実施する。有識者会議による評価は、庁内評価の後、総合戦略評価表等の資料を基に担当課へのヒアリングを実施したうえで評価を行う。なお、評価結果は、最終的に評価報告書として取りまとめる。



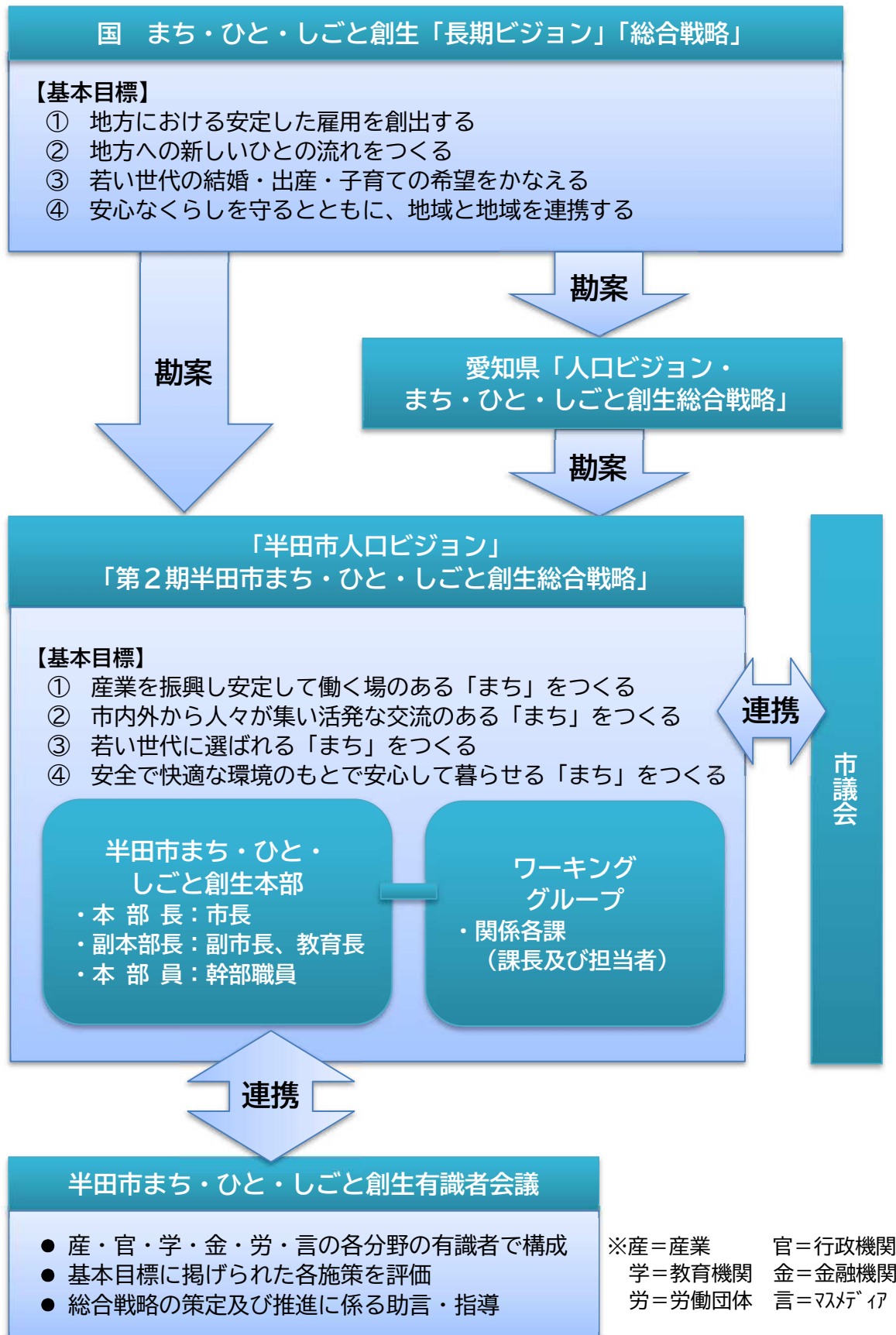
③評価報告書の反映

半田市は、評価報告書の反映状況を有識者会議に報告する。なお、報告対象とする内容は、原則として前年度分の提言等とする。

【令和7年度の評価フロー図】



(2) 推進体制



3. 評価の総括

(1) 評価の総括

○令和7年度の有識者会議

令和7年度の有識者会議は4回開催され、総合戦略の進捗状況とデジタル田園都市国家構想交付金の対象事業の有効性に係る評価を行った。評価にあたっては、基本目標における数値目標及び重要業績評価指標（K P I）の達成状況や各事業の成果、担当課長等へのヒアリング内容をふまえて総合的に検討した。

○評価

総合戦略における各指標の進捗をみると、「達成（A A）」または「順調に推移（A）」となった指標は、「基本目標における数値目標」では全8項目中2項目、「重要業績評価指標（K P I）」では全32項目中6項目に留まり、指標に対する達成度という点では改善を要する施策も多くみられた。

有識者会議では、前述の各指標の進捗のほか、施策自体の内容や進捗等も含めて総合的に勘案し、4つの基本目標に対する評価を行った。その結果として、「A A（良好）・A（概ね良好）・B（改善・見直しの必要あり）・C（改善を行い一層の努力が必要）」の4段階のうち、A評価の基本目標が2件、B評価の基本目標が2件となり、全体的には一定の進捗や改善がみられた。また、デジタル田園都市国家構想交付金の対象事業の評価も実施し、国から認定を受けた5事業については、いずれも総合戦略のK P I 達成や地方創生の推進、住民サービスの向上に有効であったと認められた。

基本目標1～4の全体として、市独自の取組や新たな取組もあり、各施策をバランス良く進められている。一方で、基本目標における数値目標や施策のK P I は一部が未達成であったため、改めて課題把握と改善を図る必要がある。

○結び

半田市の人口は、115,455人（令和7年10月1日現在）で、令和元年度以降、減少が続いている。転入の増加や転出の抑制を含む地方創生の推進にあたっては、事業改善を図りながら継続的に取組を続けていくことが重要である。

今回の事業評価の対象年度である令和6年度は、第2期総合戦略の計画期間の最終年度にあたる。第3期総合戦略にあたっては、これまでと同様に指標に対する達成度のみに捉われることなく、施策に対するそれぞれの意見や提言も重視していただきたい。今回の有識者会議における意見及び提言をふまえた上で、さらなる事業改善を図り、人口減少への対応や地域経済の活性化が果たされることを期待する。

(2) 評価結果の概要

①総合戦略の評価

基本目標		令和7年度 有識者評価	過去の 評価
評価内容			
1	産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる	A	 R3年度：A R4年度：A R5年度：A R6年度：A
	全体的に各産業の振興施策をバランス良く進められている。 農業を起点とした地域プラットフォーム「にこもぐ」での農業マルシェ等は、農業者と消費者が直接交流できる良い取組である。 市内高校との連携により、高校生に市内企業を知ってもらう取組を新たに実施できている。3つの専門高校が市内にあるという特徴を活かし、高校生の市内企業への就職につながる取組をさらに進めていけるとよい。		
2	市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる	A	 R3年度：B R4年度：B R5年度：B R6年度：B
	各種プロモーションやイベント等により、基本目標における数値目標である観光入込客数を増やすことができた。 「醸造・発酵」をテーマとして、広域での連携やプロモーション等を進めており、施策の方向性を明確に打ち出せている。今後、プロモーション等をさらに強化し、インバウンド誘客にもつなげていけるとよい。		
3	若い世代に選ばれる「まち」をつくる	B	 R3年度：A R4年度：B R5年度：B R6年度：B
	新たな取組である女性の健康管理アプリ「ルナルナ」の有料コースの無償提供や、子育て支援センターでの子どもの一時預かりにおける受入体制の強化等、出産前から出産後まで切れ目のない子育て支援を重点的に進められている。 これらの取組や半田市で暮らす魅力を若い世代に男女問わずプロモーションしていけるとよい。		
4	安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる	B	 R3年度：A R4年度：A R5年度：A R6年度：A
	未達成の指標はあるが、それぞれの取組において課題の明確化や改善が図られている。 KPIの「郷土の文化に関心を持っている市民の割合」及び「多文化共生という言葉聞いたことがある市民の割合」は伸び悩んでいるため、情報発信や意識醸成等の改善に向けた取組を進める必要がある。		

【有識者会議評価等の評価基準表】

評価	マーク	説明
AA		<u>良好です</u> 施策実施状況・方向性については「良好」。目標値の達成状況などから成果も「良好」。引き続きこの方向性で推進を。
A		<u>概ね良好です</u> 施策実施状況・方向性については「概ね良好」。改善を加えながらも、この方向性で引き続き推進を。
B		<u>改善・見直しの必要があります</u> 施策実施状況から、「努力・改善・見直しが必要」。
C		<u>改善・見直しを行い一層の努力が必要です</u> 施策実施状況から、「より一層の努力・改善・見直しが必要」。

②デジタル田園都市国家構想交付金対象事業の評価（効果検証）

○地方創生推進タイプ

事業名		総合戦略における KPIへの効果
1	伝統のまち「はんだ」の魅力向上事業	有効であった (基本目標1～4)
2	農業起点の地域プラットフォーム創出による 交流活性化事業	有効であった (基本目標1)
3	半田市中心市街地活性化推進事業	有効であった (基本目標1～3)

○デジタル実装タイプ

事業名		地方創生の推進や 住民サービスの向上への 効果
1	スマート窓口事業	有効であった
2	徴収事務改善事業	有効であった

(3) 有識者会議の開催経過

会 議	日時・場所	内 容
第1回会議	令和7年8月21日(木) 半田市役所 会議室 404	・ 評価会議に向けた事前調整
第2回会議	令和7年10月16日(木) 半田市役所 大会議室	・ 総合戦略の評価 (基本目標2、4)
第3回会議	令和7年10月20日(月) 半田市役所 大会議室	・ 総合戦略の評価 (基本目標1、3) ・ デジタル田園都市国家構想交付 金対象事業の評価
第4回会議	令和7年12月22日(月) 半田市役所 会議室 404	・ 評価報告書の承認、報告 ・ 市長との意見交換

4. 総合評価

(人口の推移及び庁内評価を含む)

半田市の人口の推移（数値）

（人）

		2014年度 (平成26年度)	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)
人口		118,929	118,700	118,824	119,077	119,775	120,051
14歳以下	男	8,905	8,701	8,518	8,370	8,293	8,152
	女	8,116	7,963	7,775	7,679	7,624	7,574
15～39歳	男	18,432	18,196	18,180	18,254	18,442	18,485
	女	16,766	16,415	16,180	16,071	15,959	15,954
40～64歳	男	20,637	20,622	20,714	20,784	20,988	21,103
	女	19,699	19,675	19,728	19,840	20,016	19,995
65歳以上	男	11,670	12,059	12,380	12,559	12,754	12,922
	女	14,704	15,069	15,349	15,520	15,699	15,866
転入者数		4,271	4,803	4,834	5,117	5,628	5,435
転出者数		4,568	4,701	4,380	4,423	4,835	5,136
出生数		966	989	965	924	946	900
死亡数		1,002	1,000	1,108	1,102	1,147	1,090

		2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)
人口		119,590	118,873	117,833	117,418	116,391	115,455
14歳以下	男	8,056	7,872	7,685	7,522	7,289	7,089
	女	7,455	7,261	7,088	6,912	6,737	6,531
15～39歳	男	18,186	17,841	17,434	17,347	17,151	16,963
	女	15,741	15,447	15,108	14,935	14,601	14,356
40～64歳	男	21,119	21,156	21,178	21,223	21,137	21,076
	女	19,937	19,951	19,936	19,969	19,849	19,688
65歳以上	男	13,076	13,215	13,214	13,266	13,334	13,368
	女	16,020	16,130	16,190	16,244	16,293	16,384
転入者数		4,534	4,586	5,001	5,031	4,705	
転出者数		4,989	5,043	5,138	5,067	4,872	
出生数		880	791	785	679	654	
死亡数		1,190	1,220	1,298	1,344	1,419	

※各年度の人口は、10月1日現在の住民基本台帳より引用している。

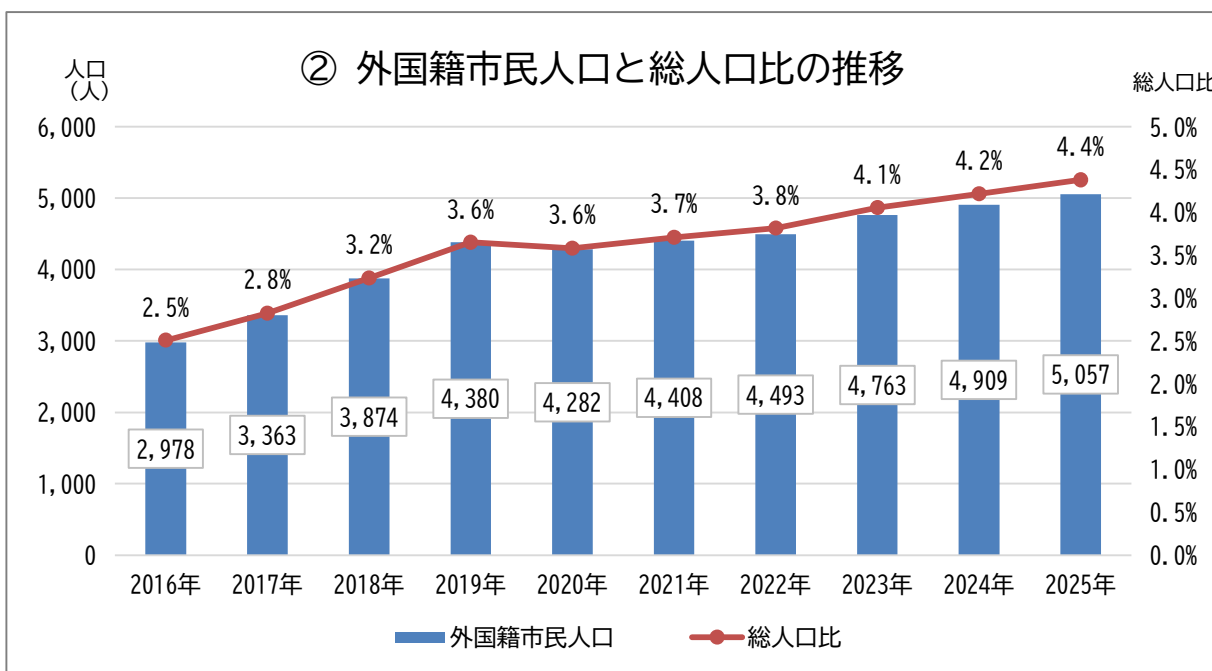
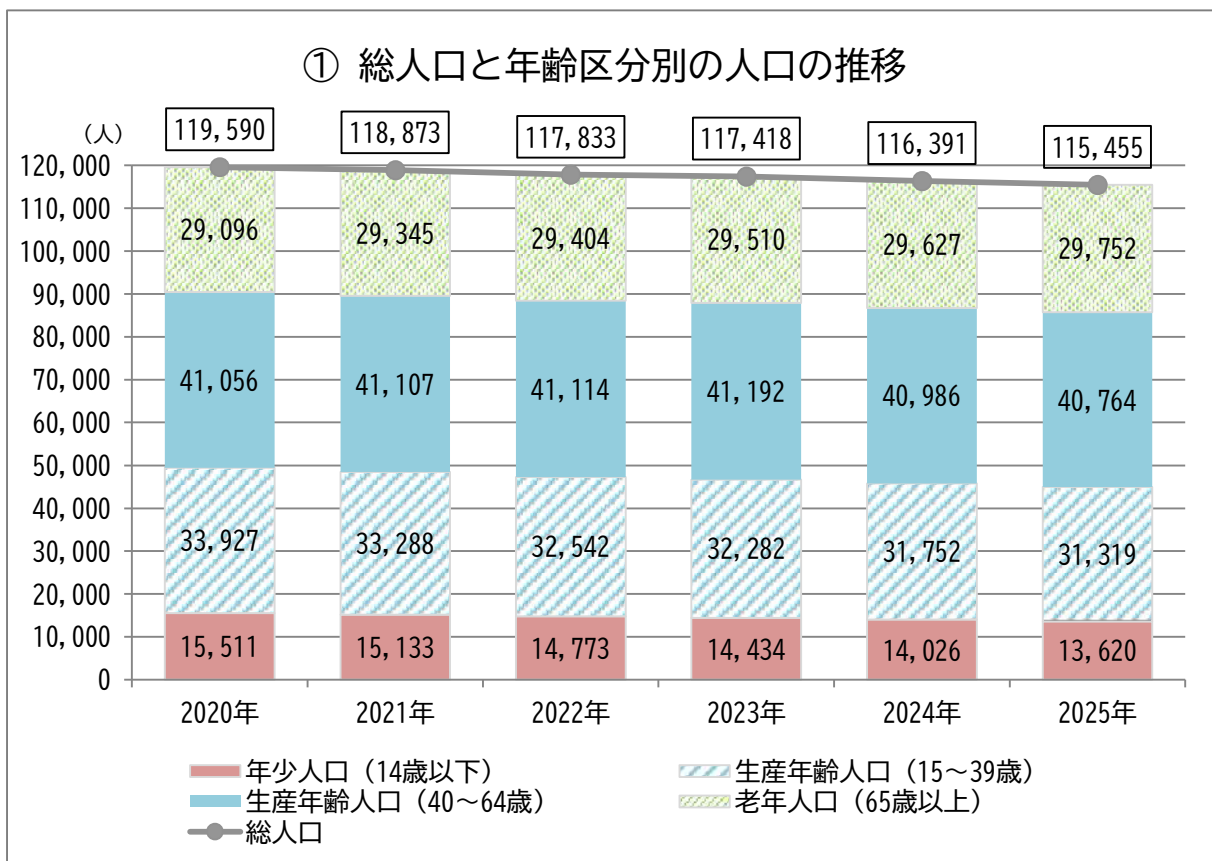
【参考】半田市人口ビジョン(～2025年度)における目標人口（各年度10月1日時点）

（人）

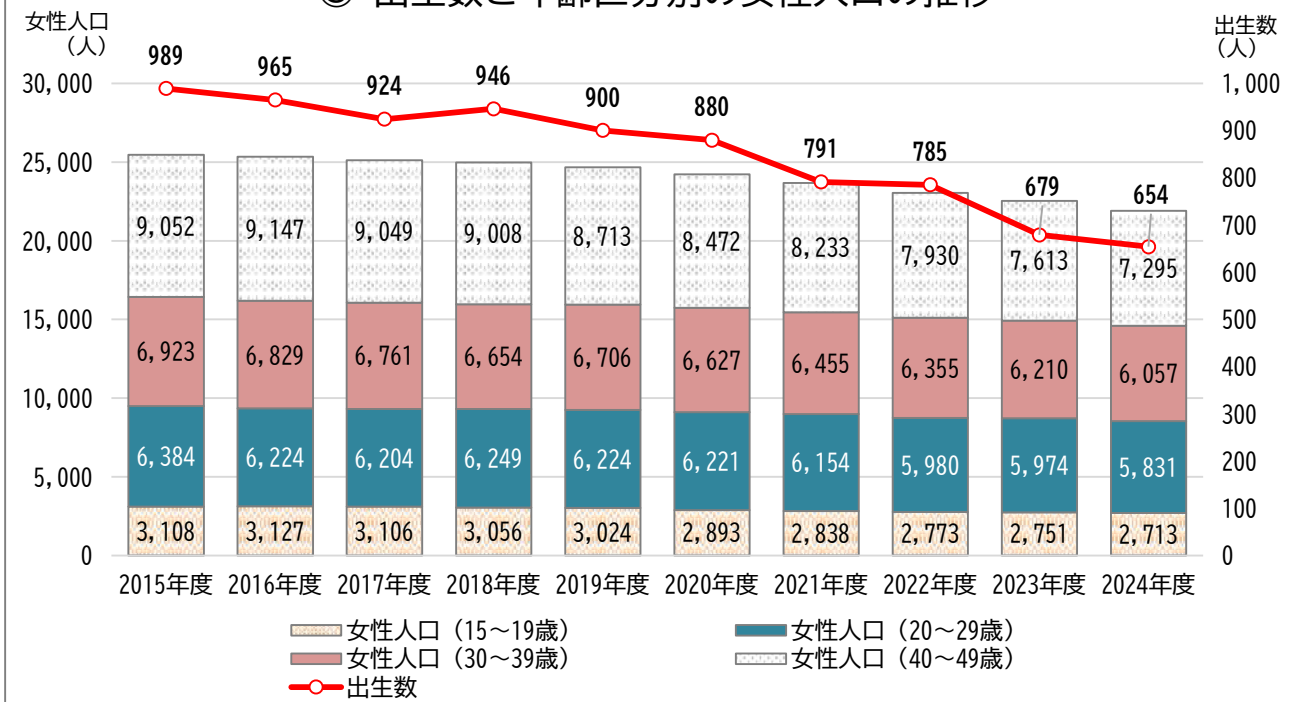
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
国勢調査ベース	116,200	116,140	116,080	116,020	115,960	115,900
住民基本台帳 ベースに換算	117,710	117,638	117,566	117,494	117,422	117,350

半田市の人口の推移（人口関連グラフ）

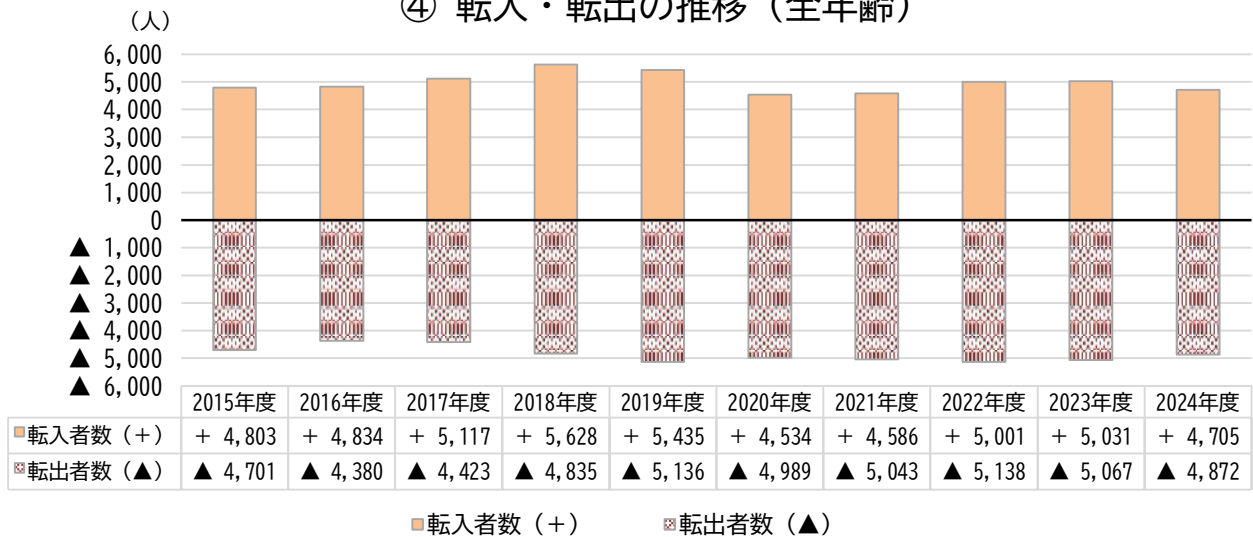
※以下のグラフ①～⑤について、各年及び各年度の人口は、すべて10月1日現在の住民基本台帳より引用している。



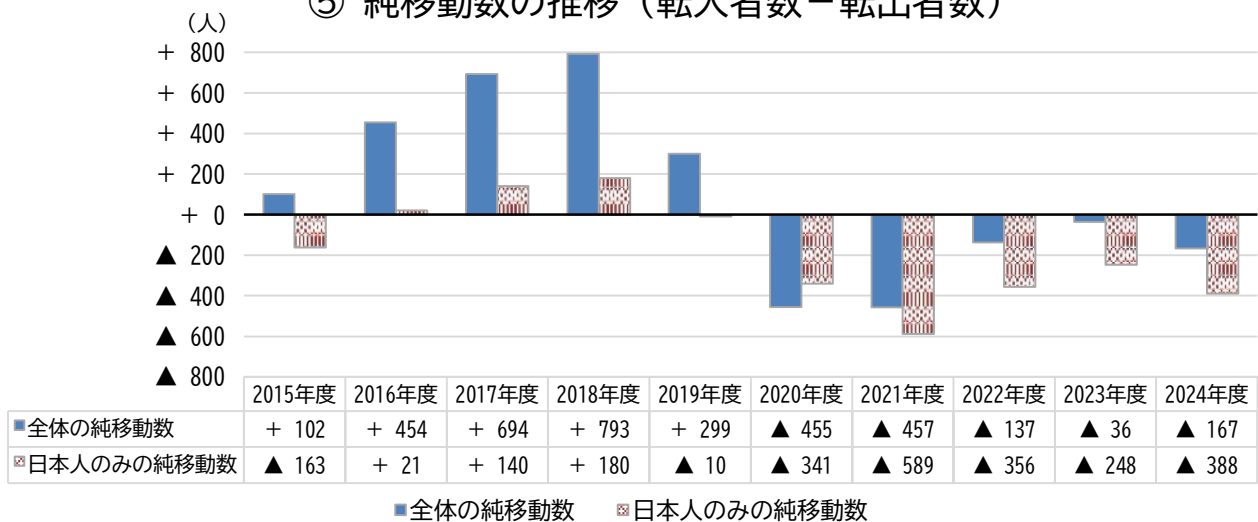
③ 出生数と年齢区分別の女性人口の推移



④ 転入・転出の推移 (全年齢)



⑤ 純移動数の推移 (転入者数－転出者数)



令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（基本目標）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

基本的方向

- ☐ 経営の安定化や新規の事業展開、創業に対する支援をし、企業の競争力向上を目指すとともに、賑わいの創出を図るため、商業の活性化に取り組みます。
- ☐ 市内に企業が進出しやすい環境を整え、誘致活動を強化することで地域経済の活性化と雇用の創出をします。
- ☐ 新規就農者を増やすとともに、農業者の「稼ぐ力」の向上を目指します。
- ☐ 求人と求職のマッチングに取り組み、若い世代を中心に就労を支援します。

【基本目標における数値目標の実施状況】

指 標	基準値 (2018)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
有効求人倍率	1.6倍	1.46倍	0.91倍	1.12倍	1.20倍	1.25倍	0.98倍	1.6倍	C
目標値に対する達成度			基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満		
製造業従業者数	16,584人	16,584人 (2018)	17,756人 (2019)	18,054人 (2020)	19,497人 (2021)	20,081人 (2022)	19,480人 (2023)	17,500人	A
目標値に対する達成率			127.9%	160.5%	318.0%	381.8%	316.2%		
農業産出額	762 千円 (2017)	747 千円 (2018)	769 千円 (2019)	779 千円 (2020)	777 千円 (2021)	827 千円 (2022)	844 千円 (2023)	765 千円 (2023)	A
目標値に対する達成率			233.3%	566.7%	500.0%	2166.7%	2733.3%		

市内全体評価

※取組に対する全体評価、
基本目標における数値目標に
対する達成状況、
今後の課題等

【各指標について】

○有効求人倍率

コロナ禍が明けて回復傾向であったが、2024年度は0.98倍で減少した。要因として、物価高等の影響から企業の経営状況の悪化により求人数が減少していると考えられる。今後も引き続き企業支援を行うことで回復を目指す。

○製造業従業者数

自動車部品等製造業を中心に従業者数が増加しており、目標値を上回ることができた。しかし、前述のとおり、企業の経営状況の悪化による求人数の減少等により、前年比では減少となった。各種補助金、優遇税制等の産業施策を引き続き展開し、幅広く企業の事業活動を支援していく。

また、石塚地区工業団地の整備事業においては、用地確保の困難な交渉を続けたことにより、地権者同意等の全ての開発審査要件を達成し、事業計画の大きな一歩を進めることができた。工業団地整備も将来的な従業者数の増加に直結するため、事業完了に向けて取組を遅延なく進めていく。

○農業産出額

特に畜産の産出額の増額が顕著で年々増額傾向である。耕種については、6次産業化支援プロジェクトにおいて、ECサイトを活用した販路拡大の支援や、魅力ある知多半島の農業とつながりをもち半田の農業の価値を高める取組を推進している。今後はこの活動をさらに発展させて、半田の農業全体の価値を高める取組を行っていく。

庁内全体評価

※取組に対する全体評価、
基本目標における数値目標に
対する達成状況、
今後の課題等

【中心市街地活性化について】

中心市街地活性化では、市長特任顧問の指揮のもと、民と公による中心市街地まちづくりの共創体制ができ、中心市街地活性化基本計画策定、知多半田駅東ロータリー基本構想策定を通じて、エリア価値向上への具体的な方向性を共有できた。

また、「半田市創造・連携・実践センター（愛称：コココリン）」を設置し、創業支援や交流プログラムを展開し、地域の担い手育成を推進した。単発イベントだけではなく、日常的に人が往来する景色や、新たな価値を生み出す仕組みの立上げができた。

今後は、基本計画を基に民と公で連携した実践を継続し、コココリンでの産業人材育成のための企画や情報発信、知多半田駅前広場改修設計、おおまた公園の利活用の検討、古民家等活用に向けた情報集約や制度検討、ハード整備や中心市街地活性化協議会と連携して、半田駅前エリアの担い手づくりや民間土地活用に向けた啓発により、交流人口・定住人口の確保、エリア価値向上につなげる。

有識者会議全体評価（意見・提言）

有識者会議全体評価

A



委員の内訳

AA … 0人
A … 6人
B … 0人
C … 0人

第2期総合戦略 各年度の評価

・ R3年度：A
・ R4年度：A
・ R5年度：A
・ R6年度：A

○良いところ、伸ばしていくべき部分

【全体の進捗】

各産業の振興施策をバランス良く進められている。

【中心市街地活性化】

中心市街地活性化のエリアマネジメント組織が立ち上がり、これからの「まちづくりの担い手」が動き出している点は評価できる。

【農業者支援】

農業を起点とした地域プラットフォーム「にこもぐ」での農業マルシェ等の活動は、生産者である農業者と消費者が直接コミュニケーションをとれる良い取組である。この取組が、農業への理解促進や農業者のモチベーション向上にもつながっている。

「にこもぐ」での取組を通して、農業者と消費者が双方の悩みや課題を共有し合い、それらを市が吸い上げて農業者の課題解決につなげていけるとよい。また、その後の展開として、課題解決の事例や成果を発信して市内外に波及させていけるとよい。

【高校生の市内企業への就職促進】

市内高校との連携により、高校生に市内企業を知ってもらう取組を新たに実施できたことは評価できる。農業、商業、工業の3つの専門高校が市内にあるという特徴を活かし、高校生の市内企業への就職につながる取組をさらに進めていけるとよい。

【はんだオープンファクトリー】

はんだオープンファクトリーの取組は、市内の産業、企業に対して市民が興味・関心を持ち、身近に感じられる良い機会となっている。

○改善が必要な部分

【企業経営の支援】

基本目標における数値目標である有効求人倍率が低下している。物価高等の影響による企業の経営状況の悪化をその要因としていることから、これに対応できるような企業支援を行えるとよい。

【半田市の農業の特徴等をふまえた展開】

農業の価値向上を目指して、他自治体と差別化できる点を明確にしていけることが重要である。それにあたり、半田市の農業の特徴や魅力を改めて洗い出し、把握できるとよい。

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策Ⅰ】 競争力ある企業活動に向けた支援と持続可能な商業の振興

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指 標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
起業・会社設立支援 補助金利用件数 (累計)	-	0件	4件	7件	11件	13件	20件	B
	達成率	0.0%	20.0%	35.0%	55.0%	65.0%		
	庁内評価 2024年度は、2件の起業者を支援した。創業支援事業により個人事業主として開業に至るケースが多いものの、会社設立を希望しない者も一定数あり、商工会議所等と連携して起業者を支援するとともに補助制度の周知を図っていく。							

指 標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
企業立地件数 (累計)	-	0件	1件	1件	1件	2件	3件	B
	達成率	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	66.7%		
	庁内評価 2024年度は、1件の新工場建設があり、企業再投資促進補助金でも支援することができた。原材料や人件費高騰など事業環境が目まぐるしく変化するなか、今後も市内への立地につなげられるよう補助制度等の周知や事業環境整備に努めていく。							

【企業立地件数】

工場立地法に該当する製造業、電気・ガス・熱供給業者で敷地面積9,000㎡以上または建築面積3,000㎡以上の規模の新設及び増築工場が対象となる。

指 標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
飲食店営業施設数 (営業許可施設数)	1,102 施設 (2018)	1,077 施設 (2019)	1,061 施設 (2020)	1,049 施設 (2021)	1,052 施設 (2022)	1,036 施設 (2023)	1,110施設	C
	達成率	基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満		
	庁内評価 飲食店営業施設数(営業許可施設数)について、大きな増減はなく、横ばいを推移している。2021年度の食品衛生法の改正により、これまで飲食店営業の分類で認可されていた施設が、一部他分野の認可対象施設に移行となったため、実際には半田市内の飲食店を営業している施設数が減少傾向にあるわけではないと考えられる。 一方で、新規出店希望者の支援を目的とした商業施設助成事業を実施しており、新規出店12件（内、飲食サービス業8件）の支援を行った。引き続き商工会議所と連携し、飲食店営業施設数を増加につなげていくことができるよう、新規出店希望者の支援を図っていく。							

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策Ⅰ】 競争力ある企業活動に向けた支援と持続可能な商業の振興

①企業経営の支援

○主要な事業、取組

A. 企業立地・創業支援事業

（産業課）

○事業の概要（目的、実施内容）

起業・会社設立支援補助金を交付し、事業者を支援する。石塚地区における工業団地への企業立地を促進するため、企業立地セミナーへの出展や新聞等にPR広告掲載するなど誘致活動を行う。また、臨海部の通勤時間帯の渋滞を緩和するため、臨港道路の大規模事業所への乗入口に右折レーンを設置する。

○事業の自己評価、成果等

商工会議所及び金融機関と連携して創業者を支援したほか、企業再投資促進補助金等の各種優遇措置を通じて、市内事業者を支援することができた。また、臨港道路の右折レーン設置工事については、支障物移転に時間を要したため、年度内の完了に至らなかったが、令和7年6月末には完了見込みであり、渋滞緩和対策を講じた。新規立地や事業拡大のタイミングは、社会経済情勢に大きく左右されることが課題である。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	783 千円	8,502 千円	2,959 千円		

B. 産業振興会議事業

（産業課）

○事業の概要（目的、実施内容）

農商工の関係者のほか、学識経験者や商工会議所等の幅広い分野のメンバー構成による常設の「産業振興会議」で、産業に関する様々な課題を議論・検討した。令和6年度は「人材獲得のための分科会」と「未来志向の勉強会」の分科会を行い、オープンファクトリーや市内高校における人材PRの実施につなげた。

○事業の自己評価、成果等

産業振興に関する将来ビジョンを示すことや体制の整備、時流に合わせた各種行政計画の見直しの必要性を提言としてまとめ、市長へ提出をした。これまで実施してきた会議の総括及び区切りとして提言書を作成し、半田市長への提出をもって本事業は終了となった。今後は提出した提言書をもとに、必要に応じ計画の見直しや産業振興策の実行をしていく。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	1,026 千円	106 千円	0 千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策Ⅰ】 競争力ある企業活動に向けた支援と持続可能な商業の振興

②企業誘致の推進

○主要な事業、取組

A. 企業立地・創業支援事業

（半田市企業再投資促進補助金・高度先端産業立地奨励金）

（産業課）

○事業の概要（目的、実施内容）

本市に新規進出する企業に向けた高度先端産業立地奨励金や本市からの流出防止及び設備投資を促進する半田市企業再投資促進補助金等の優遇制度により、企業の事業拡大を支援する。

○事業の自己評価、成果等

補助対象事業として認定していた市内企業2社（神谷鉄工㈱、㈱イクヨ）の設備投資が完了したため、企業再投資促進補助金を交付した。企業の投資は社会経済情勢に大きく左右されるが、石塚地区工業団地等への誘致と合わせて、優遇措置の相談を行うなど支援を引き続き行っていく。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	532,305 千円	177,143 千円	0 千円		

B. 石塚地区工業団地整備事業

（産業課）

○事業の概要（目的、実施内容）

市内の工業用地は既存企業で埋まっており、企業進出や事業拡大には新たな工業用地が必要になるため、工業団地の造成により、企業誘致を推進する。
工業団地造成に向け、道路詳細設計、愛知用水付替設計、補償調査、用地測量、用地買収、不動産鑑定評価を実施する。

○事業の自己評価、成果等

開発区域内地権者等全員から合意を得たことやアクセス道路地権者全員と土地売買契約を締結したことで全ての審査要件を達成し、令和7年1月に愛知県企業庁が開発を行うことが公表された。遅延なく事業を完了するため、県の造成工事やアクセス道路改良工事等に伴う関係機関協議を随時進めるとともに、地域住民の理解を引き続き得る必要がある。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	0 千円	51,048 千円	243,200 千円		

○その他の事業、取組

C. 中億田地区工業用地整備事業

（産業課）

市内の工業用地は既存企業で埋まっており、企業進出や事業拡大には新たな工業用地が必要になるため、臨海部工業団地の後背地である中億田地区において基盤整備を行い、企業誘致を推進する。

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策Ⅰ】 競争力ある企業活動に向けた支援と持続可能な商業の振興

③持続可能な商業の振興

○主要な事業、取組

A. 中心市街地活性化事業

（産業課）

○事業の概要（目的、実施内容）

【目的】

中心市街地において、ＪＲ武豊線高架事業等のハード整備で街が大きく変化する好機をとらえ、中心市街地活性化策の先進事例に明るい民間人材を市長特任顧問として登用し、地域と共に持続可能な組織づくりを行いながら、公民連携のまちづくりを行うもの。

中心市街地に多様な目的や場を作り、人づくりを行うことで、担い手や関係人口を増やし、エリア価値を高め、税収確保及び持続可能な地域づくりにつなげる。

【実施内容】

・令和6年5月に中心市街地活性化協議会を設立し、民と公で協議しながら中心市街地活性化基本計画を策定し具体事業の実践に向けた体制を構築した。

・11月にコココリン（半田市創造・連携・実践センター）を設置し、産業人材育成の拠点として、創業への関心を高めるプログラムを実施し延べ212名の参加を促し、うち2件の屋号を持った活動開始につなげた。

・知多半田駅前と半田運河で居場所づくりの実証実験、知多半田駅東ロータリーの改修に向けた基本構想の策定を行った。半田運河エリアでは交流拠点Lunga（小栗家住宅）を設置し、民主導の運営体制構築や、低未利用地調査、タウンミーティングを通して情報収集やネットワークづくりに寄与した。

○事業の自己評価、成果等

官民で実施した先進地視察では、まちづくり組織運営や公共空間利活用に対する共通認識を持ったことで有意義な意見交換ができるようになった。全国で活躍する講師を招いたまちづくりセミナーにより中心市街地活性化の必要性の理解が進んだ。未来図づくりワークショップや、創造・連携・実践センターのデザインワークショップを通じ、まちづくりの担い手の顔が見え、交流や情報拡散されることで話題性や機運醸成につながった。

知多半田と半田運河にはエリアマネジメント組織が立ち上がり、中心市街地活性化に関わりたい人の受け皿として核となり、民の自主的な活動の促進につながっている。一方で、半田駅前は担い手や運営組織が見えてきていないことが課題である。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	地方創生推進 タイプ
	26,966 千円	155,780 千円	64,468 千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策Ⅰ】 競争力ある企業活動に向けた支援と持続可能な商業の振興

B. 商業施設助成事業

（産業課）

○事業の概要（目的、実施内容）					
都市が郊外化したことにより、中心市街地をはじめとする既存の商業地域の衰退が進みつつあるなか、魅力ある個店の展開を支援することで、商業の活性化と市民生活の向上を図るため、商業施設（店舗）の内装工事にかかる新設・改装費用を2分の1を補助する。					
○事業の自己評価、成果等					
中心市街地8件、商店街エリア3件、鉄道駅周辺3件の計14件の事業者に対して商業施設の設備費用等の補助を行ったことにより、商業の活性化及び魅力ある個店の展開につなげることができた。					
○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	地方創生推進 タイプ
	5,213 千円	9,333 千円	12,000 千円		

C. J R 半田駅前土地区画整理事業

（市街地整備課）

○事業の概要（目的、実施内容）					
JR半田駅前地区において、JR武豊線の高架にあわせ土地区画整理事業を実施し、面整備と幹線道路等の整備による一体的な市街地を形成することで、住環境の向上と中心市街地の活性化につなげる。					
○事業の自己評価、成果等					
北側の整備区域において、一部の区画道路の整備が完了し、区域の住環境の向上を図ることができた。また、駅前に整備する1号公園の活用についてワークショップを実施し、参加者同士の熱心な議論により、様々な意見をいただくことができた。					
○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	1,392,293 千円	613,339 千円	812,414 千円		

D. J R 武豊線連続立体交差化事業

（市街地整備課）

○事業の概要（目的、実施内容）					
JR武豊線を高架化し、9か所の踏切を除却することにより、12か所の交差道路を整備する。また、鉄道沿線に側道6路線を整備する。これにより、東西交通の円滑化、駅へのアクセス向上及び沿線環境の保全を図る。					
○事業の自己評価、成果等					
高架に関連する道路として整備する御幸通りにおいて、電線等管理者と協議を実施し、景観形成等を目的とした無電柱化工事に着手することができた。 また、御幸通りや新川線の整備等に関する地元説明会を開催し、周知を図ることができた。説明会では通学路における歩行者の安全確保の意見があったため、今後も地元や学校と調整していく必要がある。 高架下空間の検討については、限られた敷地における単独での活用が難しいことから、JR半田駅周辺エリア全体に検討範囲を広げ、公民が連携した土地の活用について関係事業者との協議、検討を進めた。					
○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	470,521 千円	474,309 千円	987,281 千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策Ⅱ】農業の担い手づくりと持続的な農業経営基盤の構築

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指 標	基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
認定新規就農者数 (累計)	-	2人	4人	5人	6人	6人	6人	A
	達成率	33.3%	66.7%	83.3%	100.0%	100.0%		
	庁内評価							
	新規取組として、半田農業高校の2年生に対し半田の農業の講演を行い、将来半田市で就農していただくきっかけづくりとして連携することができた。また、農業大学校への訪問も昨年度に引き続き行い、学生から多くの質問や就農相談を受けることができた。 しかし、認定新規就農者の実績としては0人であったため、学校への訪問や就農相談など就農へつながる機会をさらに増やしていく必要がある。							

指 標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
新規集積面積 (累計)	-	10.5ha	18.0ha	31.3ha	40.4ha	66.1ha	7.5ha	A
	達成率	140.0%	240.0%	417.3%	538.7%	881.3%		
	庁内評価							
	遊休農地及び離農する農地等、耕作放棄地予備軍の農地を、地域の中心となる担い手へつなぎ、優良農地の確保と担い手の農地集積を図った。また、有脇地区をモデル地区として、地域集積協力金（県の交付金）を獲得しながら、地域の農業者との話し合いによる集積を進めることができた。							

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策Ⅱ】農業の担い手づくりと持続的な農業経営基盤の構築

①担い手の育成・確保／②農業経営基盤の強化／③知多牛ブランド力の強化

○主要な事業、取組

A. 6次産業化農業者支援プロジェクト事業

(産業課)

○事業の概要（目的、実施内容）

農業を起点とした地域プラットフォームの創出や農家の個力の向上、情報発信強化を目指す、農家の価値を高めるための支援を行う。その一つとして、農家とともに農業マルシェを開催し、農家主体の地域プラットフォームが構築できるよう進めていく。

○事業の自己評価、成果等

「農家の個力向上」「地域交流の拠点化」「情報発信の強化」「デジタル技術の活用」というテーマに基づき、地域プラットフォーム「にこもぐ」の確立を図りながら、農家を起点とした地域活性化を推進した結果、農家の自主性向上、市民や行政とのつながりの強化、デジタル技術の活用促進を図ることができた。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	地方創生推進 タイプ
	6,141千円	7,170 千円	20,811 千円		

B. 就農者支援事業

(産業課)

○事業の概要（目的、実施内容）

農業従事者の高齢化が急速に進展するなか、持続可能な農業を実現するには、青年等の新規就農を増加させる必要がある。そのため、新規就農者に対して、資金を交付することにより、就農後の定着を図り、青年就農者の増加を図る。また、新規就農のPR強化をし、新規就農者を確保する。

○事業の自己評価、成果等

新規就農者の農業経営を支援するための農業次世代人材投資資金および新規就農者育成総合対策事業補助金については、6名に補助金交付や就農状況確認を行い、就農後の定着を図った。（離農者0名）

また、新規取組として、半田農業高校の2年生に対して半田の農業の講演を行い、将来半田市で就農していただくきっかけづくりとして農業高校と連携することができた。高校生からの関心は高く、令和7年度も引き続き講演を行うことで、半田市での就農を広報していく。農業大学校への訪問も昨年度に引き続き行い、学生から多くの質問や就農相談を受けることができた。

SNSやはんだ市報特集ページにおいても半田の農家の魅力発信を行い、就農へつながる機会の創出を図ったが、認定新規就農者の実績としては0人であったため、学校への訪問や就農相談など就農へつながる機会をさらに増やしていく必要がある。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	7,125千円	9,485 千円	11,050 千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策Ⅱ】農業の担い手づくりと持続的な農業経営基盤の構築

○その他の事業、取組

C. 地産地消普及事業

（産業課）

市内で知多牛を食べられる飲食店を紹介するパンフレットや半田の畜産農家紹介パネルを活用し、農業マルシェ「にこもぐ」において知多牛のPRを行った。

D. シティプロモーション推進事業

（企画課）

本市の魅力発信及び愛着醸成を目的とした事業である「はんだの魅力発見ツアー」において、牧場潜入ツアーを実施した。市内外の親子を受け入れ、市内の知多和牛の牧場にて見学や肉の食べ比べを行い、知多牛・知多和牛の魅力発信につなげた。

※8組27名参加（うち、市内5組、市外3組）、94組応募（うち、市内41組、市外53組）

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策Ⅲ】就労の支援と勤労者福祉

◎重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指 標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
Uターン者数 (人／年)	890人	808人	822人	934人	821人	891人	1,000人	B
	達成率	基準値未満	基準値未満	40.0%	基準値未満	0.9%		
	庁内評価							
	直近5年間で共通する傾向として、愛知県内での移動によるUターンが6割程度と多く、一方で首都圏からのUターンは1割程度であった。また、愛知県、東京都ともに年代のボリュームゾーンは20代（4割）、30代（2～3割）で、男女別での大きな差はみられなかった。 転職や住居購入といったタイミングでの移動が考えられる。仕事と家庭の両立等を支援する「はたらく親を応援するまち」として、子育て支援や教育環境、働く場所が充実しているという都市イメージを前面に押し出していく。							

指 標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
市内の高校を卒業して 就業する者のうち 市内に本社を設置する 企業への就職率	16.6%	11.7%	11.7%	11.9%	12.6%	12.6%	25.0%	C
	達成率	基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満		
	庁内評価							
	新たに地元企業のPR事業として、市内3つの専門学科高校に市内企業を知ってもらう機会を創出するため、事業所や高等学校との打合せ、進路指導主事教員と地元企業との意見交換会を行い、うち1校で企業PRを実施することができた。今後、複数の高校で実施ができるよう取り組んでいく。							

①就労支援 ／ ②勤労者福祉

○主要な事業、取組

A. 産業人材確保支援事業

(産業課)

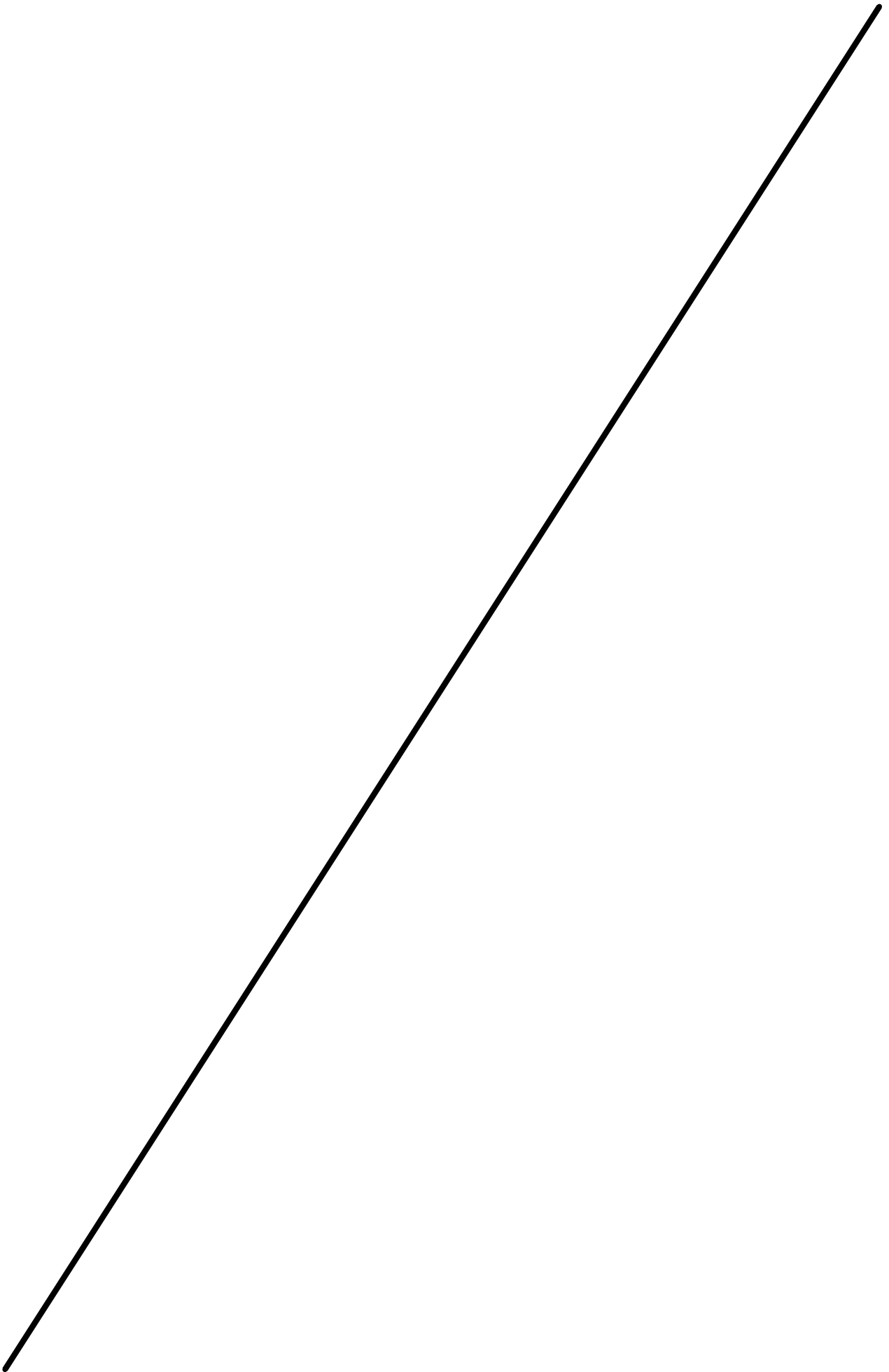
○事業の概要（目的、実施内容）

産業振興の課題として、経営資源である「人材」に着目し、人材に関する課題の調査研究や柔軟な思考を持った経営者を育成するための未来志向の勉強会、地域や高校生などに地元企業を知ってもらうためのオープンファクトリーや市内高校での企業PRなど、人材育成や産業人材の確保に向けた事業を実施する。

○事業の自己評価、成果等

昨年度に引き続き、はんだオープンファクトリーが実施され、参加事業者数の増加など、より大規模な実施内容となった。新たに高校生に対する企業PRを実施し、市内企業の魅力や仕事に関して地域の企業が直接高校生に向けてアプローチを仕掛けることができた。次世代の担い手を確保するためには、本事業を今後も継続し、より効果的な内容とするため、参加者及び参加事業者からの意見を踏まえ、実施内容を検証し、必要に応じて改善していく必要がある。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	-	1,319 千円	1,345 千円		



令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（基本目標）

基本目標 2 市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる

基本的方向

- 本市の歴史や文化に育まれた地域資源を活用するとともに、市民と市外の人々の積極的な交流を促し、交流人口や関係人口の拡大を目指します。
- 隣接市に中部国際空港が立地する条件とリニア中央新幹線開通を見据え、インバウンド誘客を推進します。

【基本目標における数値目標の実施状況】

指 標	基準値 (2018)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
観光入込客数（人／年）	168万人	167万人	56万人	79万人	134万人	157万人 ※	182万人	183万人	B
目標値に対する達成率			基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満	93.3%		

※2023(R5)年度の観光入込客数は、第九回はんだ山車まつりの入込客数（55万人）を除いた実績値

庁内全体評価

※取組に対する全体評価、
基本目標における数値目標に
対する達成状況、
今後の課題等

従来より活用している観光資源の「山車」「蔵」「南吉」「赤レンガ」に加えて、本市が育んできた歴史や文化を象徴する「醸造・発酵」をキーワードとしたプロモーションやイベントを実施した結果、観光入込客数の増加となった。また、鉄道事業者や愛知県などと連携して広域プロモーションを行うことで、県外や新たな客層の誘客につなげることができた。

イベントによる誘客は知名度や魅力を発信する手段としては有効であるものの、荒天時など自然的要因に左右されることが多いため、目標値達成のためには、さらなる日常的な誘客が必要である。

今後、観光施設や地域のブランド力向上を図り、高付加価値なコンテンツ造成を行うとともに、民間活力を活かした観光まちづくりを行うことで、賑わいの創出を図る。

また、人流動態データを活用することで、来訪者の属性や発生地、滞在時間等を分析し、よりニーズに沿った観光事業を実施する必要がある。

	有識者会議全体評価（意見・提言）
有識者会議全体評価 A  委員の内訳 AA … 0人 A … 6人 B … 3人 C … 0人 第2期総合戦略 各年度の評価 ・ R3年度：B ・ R4年度：B ・ R5年度：B ・ R6年度：B	○良いところ、伸ばしていくべき部分 【観光入込客数】 各種プロモーションやイベント等により、基本目標の数値目標である観光入込客数の増加につながられた。今後は、中心市街地活性化の事業と連携しながら、日常的な賑わいをさらに創り出していけるとよい。 【醸造・発酵をテーマとした観光】 「醸造・発酵」をテーマとして、広域での連携やプロモーション等を進めており、施策の方向性を明確に打ち出せている。今後は、プロモーション等をさらに強化し、インバウンド誘客にもつなげていけるとよい。 【半田赤レンガ建物】 ガイドツアーの内容の見直しやプロモーションの改善により、KPIである半田赤レンガ建物の来館者数を増やせている。 ○改善が必要な部分 【回遊性の向上、交通手段】 観光の回遊性向上が図られるよう、レンタサイクルや市内バス等の交通手段について整理し、検討できるとよい。 【リピーターの育成・獲得】 観光客のリピーター化にあたっては、観光客と市民の交流を通してまちとの接点を生み出していくことが重要であると考えられる。こうした交流につながる取組や支援を行っていけるとよい。

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 2 市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる
 【施策Ⅰ】地域資源を活用した観光とつながりづくりの推進

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指 標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
半田赤レンガ建物 来館者数 (人／年)	519,403人	122,607人	197,570人	411,089人	372,516人	476,606人	550,000人	C
	達成率	基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満		
	庁内評価 前年度に引き続き、インフルエンサーを活用したイベントのPRを実施したほか、新たな広報手段としてWEB雑誌への掲載を行うなど、広域的なプロモーションによる誘客を図った。また、ガイドツアーの内容見直しを行い、来場者の満足度向上に務めた。 一方、年間来場者の合計は目標値には達しておらず、日常的な誘客を図るための取組が必要である。							

指 標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
店舗での尾州早すし 提供数 (食／年)	650食	1,540食	1,450食	570食	460食	30食	10,000食	C
	達成率	10.5%	9.5%	基準値未満	基準値未満	基準値未満		
	庁内評価 尾州早すしを提供している店舗は昨年度1月に1店舗減少し、現在は1店舗のみ（予約限定）の提供となっており、提供店舗数が増加する見込みがないため、提供数の増加は難しい状況である。 今後は「醸造・発酵」をキーワードとして、尾州早すしに限らず、発酵食文化と本市の歴史を活かした観光を進めていく。							

指 標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
レンタサイクルの 利用回数 (回／年)	2,349回	1,315回	1,069回	1,562回	1,598回	1,527回	3,300回	C
	達成率	基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満		
	庁内評価 レンタサイクルの利用回数は、前年度とほぼ同数であった。現状として、ビジネス目的での来街者がレンタサイクルを利用することが多く、観光目的での利用はあまり多くないと考えられる。 今後は観光客の移動手段の需要把握を進め、レンタサイクル活用の方方向性を検討していく。							

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 2 市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる
 【施策Ⅰ】地域資源を活用した観光とつながりづくりの推進

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指 標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
ふるさと納税者数 (人／年)	338人	921人	2,697人	4,967人	3,203人	4,042人	10,000人	B
	達成率	6.4%	26.0%	51.0%	31.6%	40.8%		
	庁内評価							
	目標値には届かなかったものの、主力となる返礼品（純リンゴ酢等）の新規出品により、納税者数及び納税額を増やすことができた。また、特に県内在住者からの寄附においては、市内飲食店等で利用できる食事券や商品券が人気であり、ふるさと納税が本市への来街と消費の活性化に寄与している。 今後、新たな飲食店の掘り起こし等の新規出品につながる取組を行っていく。							

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 2 市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる

【施策Ⅰ】地域資源を活用した観光とつながりづくりの推進

①観光資源の充実と観光客の満足度向上／②回遊性の向上／
③交流の促進と関係人口の拡大

○主要な事業、取組

A. 観光振興事業

(観光課)

○事業の概要（目的、実施内容）

半田市の観光資源「山車・蔵・南吉・赤レンガ」を活用し、観光振興を図る。名鉄とタイアップしたいいかも半田キャンペーン推進事業や「醸造・発酵」にスポットをあてた食の観光推進事業等を実施し、半田市の観光の魅力をより一層PRし、観光客の誘客や知名度を向上させるとともに、地域経済の活性化を図る。

○事業の自己評価、成果等

既存の観光施設や資源に加えて、本市が育んできた歴史や文化を象徴する醸造・発酵をキーワードとしたプロモーションやイベント等を実施することで観光入客数は増加となった。また、いいかも半田キャンペーンによる広域PRやSNS広告の推進、旅行系インフルエンサーによるSNS観光情報発信などにより、新たな客層の誘客につなげることができた。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	地方創生推進 タイプ
	29,749 千円	36,476 千円	35,730 千円		

B. 半田運河活性化推進事業

(観光課)

○事業の概要（目的、実施内容）

半田運河の景観や周辺観光施設、醸造の歴史・文化を活かしたイベントを充実させることにより、年間を通じた賑わいの創出を図る。「半田運河マルシェ」の開催や、四季を感じる装飾（風鈴等）を半六庭園に設置し、写真映えするスポットを創出する「半田運河誘客スポット設置事業」を実施し、半田運河の魅力を発信を強化する。

○事業の自己評価、成果等

歴史的・文化的施設を活用した誘客スポットの創出に加え、半田運河エリアと親和性が高い醸造・発酵文化を核とした半田運河周辺のブランディングを行ったことにより観光入客数の増加につながり、広く市民や観光客に半田運河の魅力を発信することができた。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	地方創生推進 タイプ
	14,701 千円	13,477 千円	16,225 千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 2 市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる
 【施策Ⅰ】地域資源を活用した観光とつながりづくりの推進

C. 半田赤レンガ建物管理運営事業

（観光課）

○事業の概要（目的、実施内容）

観光客の市内回遊の拠点施設として多くの観光客を誘客するため、飲食提供、物販サービス、常設展示室公開、企画展・イベント開催、貸館サービス等に関して、民間事業者のノウハウや創意工夫による指定管理者制度を活用した管理運営を行う。

○事業の自己評価、成果等

話題性のある新たな企画展の開催や、WEB雑誌への掲載といった新たな広報手段の導入により、来場者数は前年度比127.9%となり、建物の歴史的価値や魅力を発信することができた。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	64,100 千円	63,940 千円	64,143 千円		

D. どこでもスポーツ推進事業

（スポーツ課）

○事業の概要（目的、実施内容）

スポーツ推進計画の基本理念である【どこでもスポーツが親しめるように】のうち、「場所を選ばないスポーツを推進します。」について、推進が図られていないため、公共施設の空きスペースを活用し、スポーツイベントを開催することで、スポーツを「見る」「触れる」機会を創出し、どこでもスポーツの推進を図る。併せて、市がイベントを実施し集客性を示すことで、民間団体主催のスポーツイベント開催につなげる。

○事業の自己評価、成果等

これまでにない場所及び様々なジャンルと複合的に開催することで、大いに盛り上がる新たなスポーツイベントを実施することができた。その結果、はんだふれあい産業まつりにおいて、半田市バスケットボール協会主催による開催につなげることができた。
 引き続き、様々なスポーツにおいて、既存の枠組みに囚われない新たな実施方法を模索しつつ、誰もが楽しめるスポーツイベントの企画・運営を実施していき、さらに民間団体主催のイベント開催を目指す。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	0 千円	1,651 千円	1,526 千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 2 市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる
【施策Ⅰ】 地域資源を活用した観光とつながりづくりの推進

E. ふるさと納税事業

（企画課）

○事業の概要（目的、実施内容）

地場産業の振興及び本市の財源確保を目的として、ふるさと納税による寄附額及び寄附件数の増加につながる取組を進めた。市内で製造される物品を市外の卸売事業者が返礼品として出品できるよう本市の制度を変更し、返礼品事業者と返礼品の拡大につなげた。また、国による広告規制が厳しくなる中での対応可能なPR活動として、楽天ふるさと納税サイト内での広告を行った。（※12月及び3月に広告を行い、広告費355千円に対して2,269千円の寄附が得られた。）

○事業の自己評価、成果等

国の返礼品基準や広告規制が厳格化される状況下であったものの、前述の本市の制度変更等の取組により、返礼品事業者数を前年度から7者増加させるとともに、目標額1億円に迫る過去最高の寄附額を達成できた。（令和6年度実績：寄附額97,714千円、事業者数111事業者）

寄附傾向として、特に県内在住者からの寄附においては、市内飲食店等で利用できる食事券や商品券が人気であった。これら返礼品への寄附拡大は、本市を訪れるきっかけとして関係人口の創出にも大きく寄与するため、今後、新たな飲食店の掘り起こし等の新規出品につながる取組を行っていく。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	38,327 千円	38,721 千円	49,881 千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 2 市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる
【施策Ⅱ】インバウンドの拡大に向けた取組みと効果的な情報発信

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指 標	基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
観光施設の 外国人観光入込客数 (人／年)	—	694人	328人	632人	1,818人	1,844人	1,200人	A
		57.8%	27.3%	52.7%	151.5%	153.7%		
(対象施設) ・半田赤レンガ建物 ・新美南吉記念館 ・ミツカンミュージアム ・國盛 酒の文化館	市内評価 中部国際空港や鉄道事業者、愛知県などと醸造・発酵をキーワードとしたプロモーションを行ったことにより、関連施設の外国人観光客増加につながった。							

指 標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
市及び観光協会が 発信している 観光SNSの フォロワー数 (人／年)	11,760人 (2018)	20,138人 (2020)	24,656人 (2021)	30,307人 (2022)	35,914人 (2023)	37,418人 (2024)	20,000人	A
		101.7%	156.5%	225.1%	293.1%	311.4%		
	市内評価 イベント情報の発信やPR出展時にInstagramフォローの誘導を行うなどを行い、フォロワー数増加に努めた。							

①インバウンドの掘り起こし / ②インバウンドの受入強化
/ ③情報発信力の強化

○ 主要な事業、取組

A. 市内におけるインバウンドに対する取組

(観光課)

○ 事業の概要（目的、実施内容）

全国的なインバウンド需要が増加する傾向の中、外国人観光客の立ち寄り先となる施設の受け入れ態勢強化やコンテンツの造成を官民連携で行う。

○ 事業の自己評価、成果等

本市も幹事として参画する「愛知『発酵食文化』振興協議会」として、半田運河周辺を拠点としたインバウンド向け体験プログラムとツアーの造成を行った。また、半田市観光協会が市と国の補助を受け、文化財を活用したインバウンド向けツアーの造成を行った。これらのコンテンツを公共交通機関や関係機関と連携し、国内外へインバウンド誘客に向けたPRを行った。

○ 事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○ デジ田 交付金	対象外
	—	—	—		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（基本目標）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

基本的方向

- ☐ 妊娠から出産、子育てまで切れ目のない支援により父母の不安や負担の軽減を図るとともに、仕事と子育ての両立を支援します。
- ☐ 子どもたちが、まちの歴史や文化を理解し、ふるさとに愛着と誇りを持ち続けられるとともに、確かな学力を身につけ、豊かな心や健やかな体を育むための教育を推進します。
- ☐ 若い世代が定住しやすい環境を整備します。

【基本目標における数値目標の実施状況】

指 標	基準値 (2018)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
合計特殊出生率	1.37 (2017)	1.45 (2018)	1.31 (2019)	1.40 (2020)	1.26 (2021)	1.23 (2022)	1.20 (2023)	1.80 (2023)	C
目標値に対する達成率			基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿		
若い世代(※)の転入者数 ※39歳以下	4,419人	4,309人	3,501人	3,482人	3,917人	3,973人	3,744人	5,500人	C
目標値に対する達成率			基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿		
若い世代(※)の転出者数 ※39歳以下	3,781人	4,069人	3,893人	3,950人	4,044人	3,890人	3,792人	3,700人	C
目標値に対する達成率			基準値超過	基準値超過	基準値超過	基準値超過	基準値超過		
参考：純移動数 (転入－転出)※39歳以下		240人	▲392人	▲468人	▲127人	83人	▲48人		

庁内全体評価

※取組に対する全体評価、
基本目標における数値目標に
対する達成状況、
今後の課題等

【指標について】

(転入者数・転出者数)

直近の純移動数▲48人（転出超過）について、日本人の転出超過を外国人の転入超過が部分的に補っている状況にある。（R6純移動数：日本人▲311人、外国人+263人） また、日本人に限定すると、進学・就職をきっかけとした東京都や名古屋市への転出がみられたほか、近隣自治体への子育て世帯の転出超過も引き続き発生している。

(合計特殊出生率)

15～49歳の女性人口は減少し続けているが、近年ではそれ以上に出生数の減少が著しいため、出生率が低下している。（出生数の推移：R1年度900人→R6年度654人） 前述のとおり、子育て世帯や20～30歳代女性が転出超過の状況にあるため、移住・定住促進の取組と合わせた対策をとる必要がある。

【取組について】

本市では、移住・定住促進及び出生率向上につながる施策として、子育て世帯をターゲットに「はたらく親を応援するまち」としての取組を進めている。令和6年度には、多子世帯の保育料無償化や公立保育園等における登園時の荷物の軽減（お昼寝ふとん等の用意）等を新たに実施し、仕事と子育ての両立支援・経済的支援を拡充した。

また、シティプロモーション推進事業として、テレビ等のメディアにアプローチするプロモート活動やプレスリリース配信サービスの活用を新たに実施した。今後も「はたらく親を応援するまち」という都市イメージの構築に向けて、取組の充実と効果的なプロモーション活動を一体的に進めていく。

有識者会議全体評価（意見・提言）

有識者会議全体評価

B



委員の内訳

AA … 0人
A … 0人
B … 6人
C … 0人

第2期総合戦略
各年度の評価

・ R3年度：A
・ R4年度：B
・ R5年度：B
・ R6年度：B

○良いところ、伸ばしていくべき部分

【子育て支援】

新たな取組である女性の健康管理アプリ「ルナルナ」の有料コースの無償提供や、クラシティの子育て支援センターにおける子どもの一時預かりの受入体制強化等、出産前から妊娠中、出産後まで切れ目のない子育て支援を重点的に進められている。

様々な取組が展開できていることから、これらの取組や半田市で暮らす魅力を女性だけでなく男性や若い世代にもプロモーションしていけるとよい。

【いじめ・不登校対策】

いじめや不登校対策事業における児童生徒への支援として、スクールソーシャルワーカーの増員や校内教育支援センターの設立等に取り組んでいる。

○改善が必要な部分

【子育てをする親のつながりの創出】

Webサイト「半田市子育て応援サイト はんだっこネット」の活用等により、子育てをする親同士が交流し、つながれる機会を創出できるとよい。

【子育て支援の新たな視点やスキーム】

「こどもに選ばれるまち」という視点からの新たな子育て支援の取組や、知多地域全体での魅力向上を目指して、近隣自治体と連携して子育て支援が展開できるスキームの構築を検討していけるとよい。

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅰ】出産・子育てのしやすい環境の整備

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指 標		基準値 (2019)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
保育所等の 待機児童数	4月1日時点	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	C
	10月1日時点	9人	0人	16人	5人	27人	69人	0人	
		達成率	100.0%	基準値超過	44.4%	基準値超過	基準値超過		
		庁内評価							
		子育て世代の女性の就業率が上昇したことなどに伴い、0・1歳児クラスの入所申込児童数が増加し、年度途中に待機児童が発生した。引き続き、「半田市保育園等公民連携更新計画」に基づき、民営化を進めることで多様化する保育ニーズに対応していく。また、小規模保育事業所を新たに開設するなど、低年齢児の受け皿確保に努めた。							

指 標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
放課後児童クラブ利用者数 (人／年)	931人	1,029人	1,030人	1,074人	1,066人	1,126人	1,200人	B
	達成率	36.4%	36.8%	53.2%	50.2%	72.5%		
	庁内評価							
	今後も共働き世帯等の増加に伴う放課後児童クラブの利用ニーズの増加が見込まれるため、安心安全に利用していただける受け皿の確保及び環境整備に努める。							

指 標		基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
理想とする子どもの人数が いるまたは持つ予定である 若い世代（女性）の割合		77.3%	61.3%	58.3%	52.1%	40.9%	39.8%	80.0%	C
			(2021調査)	(2022調査)	(2023調査)	(2024調査)	(2025調査)		
		達成率	基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満		
		庁内評価							
		市民アンケートの設問において、「わからない」・「どちらともいえない」の割合は46.6%で年々増加傾向にあり、本指標が低下し続けている要因のひとつである。（2020年度:31.3%→2024年度:46.6%）先行きの見通しが困難な中で子どもを産み育てていく不安感が背景として考えられる。「はたらく親を応援するまち」の施策を展開する中で、子育て世帯や若い世代の不安感の軽減につながる取組を進めていく。							

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅰ】出産・子育てのしやすい環境の整備

①出産・子育てへの経済的応援

○主要な事業、取組

A. 子ども医療費助成事業

（国保年金課）

○事業の概要（目的、実施内容）

子どもに対して医療費を助成することにより、保護者の経済的な負担を軽減し、適切に医療を受ける機会の確保、健康の保持・増進等の福祉の向上を図る。ただし、中学生及び高校生等の通院費は自己負担分の2／3を助成する。

○事業の自己評価、成果等

受給資格者が医療費による経済的な負担等の影響を受けることなく、必要とする医療を適切に受ける機会を確保した。中学生及び高校生等の通院費について、令和7年4月から自己負担分の全額を助成するため、医療機関等との調整、新しい受給者証の交付、システムの改修を行った。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	622,386 千円	590,541 千円	730,621 千円		

B. 不妊治療費助成事業

（子育て相談課）

○事業の概要（目的、実施内容）

不妊に悩む夫婦に対し、不妊治療（保険適用の治療のみ）に要する費用の一部を助成することにより、その経済的な負担の軽減を図る。

○事業の自己評価、成果等

令和5年度から生殖補助医療を助成対象とするなど大きな制度改正を行った結果、経済的負担の軽減により安心して治療ができ、不妊治療費助成金を支給した夫婦で妊娠した件数が増加した。また、市報・ホームページ等での周知、県内の主要な医療機関へ制度改正の通知文書の送付、近隣医療機関へポスター掲示を依頼するなど、助成制度の効果的な周知を行うことができた。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	8,849千円	13,551 千円	14,211 千円		

C. 放課後児童健全育成事業

（子ども育成課）

○事業の概要（目的、実施内容）

半田市放課後児童健全育成事業補助金（入所児童奨励費）により、半田市が委託する放課後児童クラブ利用者のうち、減免対象となる利用者の保育料減免額を委託事業者に補助するもの。

○事業の自己評価、成果等

保護者の経済的負担の軽減を図ることで、はたらく親支援に寄与した。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	290,647 千円	306,709 千円	328,618 千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅰ】出産・子育てのしやすい環境の整備

②子どもを産み育てるサポート体制の充実

○主要な事業、取組

A. 子育て支援センター事業

（子ども育成課）

○事業の概要（目的、実施内容）

子育て支援センターにおける地域子育て支援拠点事業と乳幼児一時預かり事業の実施により、子育て・子育て支援の推進を図る。

○事業の自己評価、成果等

仕事・リフレッシュ・他の兄弟の学校行事等、利用の理由を問わない乳幼児の一時預かりを行っている。

また休館日や年末年始を除く年間346日、利用時間も午前7時30分から午後7時まで受け入れを行い、はたらく親にも利用しやすい環境を提供し親の負担軽減を図った。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	28,764 千円	36,199千円	39,308千円		

○その他の事業、取組

B. 放課後子ども教室推進事業

（子ども育成課）

令和6年度は12校で実施した。

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅰ】出産・子育てのしやすい環境の整備

③仕事と子育ての両立支援

○主要な事業、取組

A. 放課後児童健全育成事業

（子ども育成課）

○事業の概要（目的、実施内容）					
保護者が就労等により昼間家庭にいない小学生に、放課後等の適切な遊びや生活の場を提供するため、市内20か所の放課後児童クラブに事業を委託することで、児童の健全な育成を図る。					
○事業の自己評価、成果等					
放課後や長期休業期間中の児童の居場所を確保することで、健やかな成長に寄与するとともに、保護者の子育てと就労の両立支援を図ることができた。					
○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	290,647 千円	306,709 千円	328,618 千円		

B. 民間保育所運営事業 / 地域型保育事業

（幼児保育課）

○事業の概要（目的、実施内容）					
民間保育所や地域型保育事業施設等に対して、子ども・子育て支援法の規定に基づく施設運営に係る補助や、物価高騰等の中でも保護者の負担なく給食の質を維持するための補助を行う。					
○事業の自己評価、成果等					
花園保育園の民営化やめいてつ保育ステーション知多半田駅ぽっぽ園の開設により、定員枠の拡大を図った。しかしながら、低年齢児の保育ニーズ及び子育て世代の女性の就業率が上昇傾向にあり、結果として0歳児及び1歳児クラスにおいて年度途中で待機児童が発生した。 こうした年度途中の待機児童数の増加にスピード感をもって対応するため、公募型プロポーザルを実施し、令和7年度新たに開所する事業所を決定した。今後も引き続き、公立保育所の民営化を含め低年齢児の定員拡充に努める。 また、国・県補助金である「保育対策総合支援事業費補助金（保育補助者雇上強化事業）」の活用や、市単独事業である「民間保育所運営費補助金（配置強化職員費）」の交付を行うことで、民間保育所等における保育士の業務負担軽減や離職防止に寄与した。 さらに、前年度に引き続き「保育所等給食費軽減対策補助金」の交付を行うことで、保護者の負担なく給食の質を維持することに寄与した。					
○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
民間保育所 運営事業	845,182 千円	936,950 千円	1,145,866 千円		
地域型保育事 業	170,000 千円	237,107 千円	300,153 千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅰ】出産・子育てのしやすい環境の整備

C. 市立保育園管理運営事業

（幼児保育課）

○事業の概要（目的、実施内容）

家庭で保育ができない保護者に代わり保育を行うことに加え、通園する児童の心身の育成を行う。また、物価高騰等に伴い保護者の負担なく給食の質を維持するため、賄材料費等の増額計上を行う。

○事業の自己評価、成果等

待機児童数について年度当初は0人であったが、年度途中では69人生じた。
保育が必要な就学前児童に対し、施設の維持・管理等の環境整備に努め、円滑に保育を実施することができた。しかし、年度途中において待機児童が発生しているため、公立保育園の民営化による低年齢児の定員数の拡充を図り、待機児童の解消に努めていく必要がある。
また、令和6年度から実施した18歳未満の第2子以降の保育料無償化により、保護者の経済的負担軽減を図った。
さらに、前年度に引き続き、賄材料費等の市負担分を増額することで、保護者の負担なく給食の質を維持することができた。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	340,639 千円	147,481 千円	319,456 千円		

D. 保育園等登園準備負担軽減事業

（幼児保育課）

○事業の概要（目的、実施内容）

令和6年度からの新たな取組として、公立保育園等へ通う0～2歳児を対象に、お昼寝ふとん及び食事用エプロン等を各園で用意し、登園準備に係る保護者の負担を軽減させる。

○事業の自己評価、成果等

前年度に各家庭でふとん等を準備していた保護者を対象としたアンケートでは、91.4%の保護者から「十分満足している」との回答を得られ、子育て支援の充実を図ることができた。さらなる保育サービスの改善・拡充に向け、お昼寝ふとんにおける保育園への提供方法、食事用エプロンの材質等、事業内容の検討を進める必要がある。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	-	19,683 千円	19,803 千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅱ】 健やかな育ちと学びにより子どもの確かな成長を支援

◎ 重要業績評価指標（K P I）の達成度と評価

指 標	基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
D T 2種混合予防接種の 接種率 ※D T 2：ジフテリア及び破傷風	85.0%	80.5%	81.9%	83.5%	74.2%	83.3%	90.0%	C
	(2018)	(2020)	(2021)	(2022)	(2023)	(2024)		
	達成率	基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満		
	庁内評価 D T 2種混合予防接種の接種率については、昨年度より上昇したものの、目標値に達しなかった。D T 2種混合に代わる任意予防接種のD P T 3種混合を選択する保護者が増えていることが要因の一つと考えるが、どちらも未接種の子どももいるため、より効果的な接種勧奨を行うことが課題である。							

指 標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
学校が楽しいと 回答している 児童・生徒の割合	88.9%	88.2%	88.7%	88.8%	88.4%	86.0%	90.0%	C
	(2018)	(2020)	(2021)	(2022)	(2023)	(2024)		
	達成率	基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満		
	庁内評価 学校生活アンケートで「学校が楽しい」と回答した児童・生徒の割合は減少したが、引き続き、児童生徒が楽しいと感じる魅力的な授業づくりや学校運営に努める。							

【学校生活アンケート】

小学4～6年生及び中学1～3年生について、市内のすべての小中学校の各学年から1学級ずつ抽出し、毎年度アンケート調査を実施している。

指 標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
コミュニティ・スクールの 活動回数 (1校あたりの平均回数／年)	-	31回	47回	56回	50回	74回	50回	A
	達成率	62.0%	94.0%	112.0%	100.0%	148.0%		
	庁内評価 地域の方々が登下校の見守り活動だけでなく、家庭科のミシンの授業など実技授業の支援といった校内の支援に入ることが増加した。引き続き児童生徒が地域の方々と顔を合わす機会の確保に努め、コミュニティ・スクールの推進に努める。							

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅱ】 健やかな育ちと学びにより子どもの確かな成長を支援

①子どもの健康の維持・増進

○主要な事業、取組

A. 母子健康増進事業

（子育て相談課）

○事業の概要（目的、実施内容）					
母子保健法に基づき、母性並びに乳幼児等の健康の確保及び増進を図ります。妊娠期から切れ目ない支援を目指す利用者支援事業を行い、地域で安心して子育てが行えるよう相談支援の充実を図ります。					
○事業の自己評価、成果等					
これまでの伴走型相談支援事業に加え、妊娠8か月アンケートと産後2週間頃に母子の状況を確認する「すこやかベビー応援コール」を開始したことにより、必要な支援が早期に実施できた。					
○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	4,466 千円	4,159千円	5,238千円		

②地域とともにふるさと半田を大切にする子どもの育成

○主要な事業、取組

A. コミュニティスクール推進事業

（学校教育課）

○事業の概要（目的、実施内容）					
地域と学校が互いにパートナーとして「連携・協働」を行い、地域と学校の協働体制を構築し、教育活動等の活性化を図る。					
○事業の自己評価、成果等					
地域の方々が登下校の見守り活動だけでなく、家庭科のミシンの授業など実技授業の支援といった校内の支援に入ることが増加した。引き続き児童生徒が地域の方々と顔を合わす機会の確保に努め、コミュニティ・スクールの推進に努める。					
○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	6,008 千円	5,868 千円	6,422 千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅱ】 健やかな育ちと学びにより子どもの確かな成長を支援

③キャリア教育の推進と知徳体のバランス豊かな子どもの育成

○主要な事業、取組

A. 学校生活支援事業

（学校教育課）

○事業の概要（目的、実施内容）

小中学校において、特別な支援を必要とする児童生徒に適切に対応するため、支援員等を配置する。令和6年度からは、各中学校に1名の特別支援学級補助員を新たに配置し、多様化する支援ニーズに対応した。

○事業の自己評価、成果等

よりきめ細やかな支援を実施するため、令和6年度からは、各中学校に特別支援学級補助員を1名配置し、特別な支援を必要とする児童生徒の個別支援を実施した。また、支援員等に対して、支援に必要な心構えや技術を学ぶ機会として、年2回の研修を実施し人材育成に努めた。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	105,988 千円	162,644 千円	173,503 千円		

B. いじめ・不登校対策事業

（学校教育課）

○事業の概要（目的、実施内容）

いじめや不登校など児童生徒の課題に対して、学校でのカウンセリング等の機能充実を図り、児童生徒の心の安定や自立を援助する。

○事業の自己評価、成果等

令和6年度においては、スクールソーシャルワーカーの配置人数を従来の1名から3名に増員し、さらに半田中学校に校内教育支援センターIルームを設立するなどの施策を進めた。これにより、支援を必要とする児童生徒の心の安定を促し、課題解決に貢献することができた。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	47,952 千円	69,595 千円	74,608 千円		

○その他の事業、取組

C. キャリアスクールプロジェクト推進事業

（学校教育課）

小・中学校の発達段階に応じた系統的なキャリア教育を進めていく事業の一つとして、職場体験等の体験活動を実施した。

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】若い世代の定住を促進

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指 標	基準値 (2019)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
これからも半田市に住み続けたいと思う 市民の割合 (39歳以下)	52.8%	57.4% (2021調査)	52.3% (2022調査)	43.2% (2023調査)	34.5% (2024調査)	48.1% (2025調査)	70.0%	C
	達成率	26.7%	基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿		
	庁内評価							
	目標値や基準値は下回ったものの、令和6年度は低下傾向から復調することができた。 市民アンケートにおける本設問への回答として、「どちらともいえない」の割合は46.3%であり、「住み続けたい」の48.1%と拮抗している。「どちらともいえない」という状態からの転換を図るため、子育て世帯をターゲットに「はたらく親を応援するまち」という都市イメージの構築を図っていく。 令和6年度には、本市の露出度を高めるために、テレビ等のメディアにアプローチするプロモート活動等を行い、情報発信を強化した。今後も子育て支援や教育環境、働く場が充実しているという都市イメージを前面に押し出してPRを行っていく。							

※市民アンケートの概要については、p.40（基本目標4）を参照。

指 標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
半田市に好意的な イメージを持っている 転入者の割合	39.0%	45.0% (2021調査)	32.1% (2022調査)	39.4% (2023調査)	45.7% (2024調査)	43.0% (2025調査)	60.0%	B
	達成率	28.6%	基準値未滿	1.9%	31.9%	19.0%		
	庁内評価							
	転入者アンケートの子育て世帯の回答について、本市のイメージとして「歴史・文化がある（山車まつり等）」や「家計に優しい（水道料金が安いこと等）」を挙げる割合が高い結果となった。子育て世帯においては、これらへの関心が高い、または、目に触れる機会が多いと考えられる。 一方で、「子どもの未来を応援するまち」のイメージは低い結果となった。今後もさらに、「はたらく親を応援するまち」として、本市のシティプロモーションサイト等を活用しながら、子育て支援等の充実した施策や本市の魅力を発信していく。							

【転入者アンケート】

転入の手続きのために市役所に来庁した転入者を対象にアンケートを随時実施している。
令和6年度は回答数500件のうち、215件（43.0%）が「かなり良いイメージ」または「良いイメージ」と回答した。

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】若い世代の定住を促進

①居住しやすい環境の整備

○主要な事業、取組

A. 半田乙川中部土地区画整理事業

（市街地整備課）

○事業の概要（目的、実施内容）

乙川中部地区の土地区画整理を実施することにより、道路・水路・公園など公共施設の土地基盤を整備するとともに、土地利用の再編成を行い、良好な住環境の形成を図る。地区内には、本市の道路網の骨格となる都市計画道路3・3・21環状線が計画されており、早急な整備が望まれているため、あわせて整備を進める。

○事業の自己評価、成果等

環状線（跨線橋区間）の供用開始を予定通り年度内に実施することができたが、国道247号嵩上げ工事では度重なる車線切替と沿道施設の乗入口に配慮しながらの施工、また環状線側道工事では設計見直しに時間を要したことにより、令和6年度に完了することができなかった。引き続き、地元住民や臨海部の企業などと調整を図り、令和7年度の早期完了を目指す。さらに、今後の換地処分に向け、JR沿線における近接協議を円滑に進めるなど、残る工事を着実に実施する必要がある。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	854,660 千円	730,646 千円	1,061,912 千円		

B. J R半田駅前土地区画整理事業（再掲：基本目標1_施策Ⅰ）

（市街地整備課）

○事業の概要（目的、実施内容）

JR半田駅前地区において、JR武豊線の高架にあわせ土地区画整理事業を実施し、面整備と幹線道路等の整備による一体的な市街地を形成することで、住環境の向上と中心市街地の活性化につなげる。

○事業の自己評価、成果等

北側の整備区域において、一部の区画道路の整備が完了し、区域の住環境の向上を図ることができた。また、駅前に整備する1号公園の活用についてワークショップを実施し、参加者同士の熱心な議論により、様々な意見をいただくことができた。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	1,392,293 千円	613,339 千円	812,414 千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】若い世代の定住を促進

C. 公園整備・改修事業

（都市計画課）

○事業の概要（目的、実施内容）

既存の都市公園において、利用者が安全かつ快適に利用できるよう、老朽化が進んでいる公園施設の整備・改修を実施する。

○事業の自己評価、成果等

州の崎公園バックネット改修、七本木池公園東屋設置を始めとする公園施設の整備・改修及び企業版ふるさと納税を活用した桐ヶ丘公園始め3公園における健康遊具3基の設置などを行った。これにより、公園利用者の利便性及び安全性の向上を図ることができた。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	18,627千円	43,107千円	6,085千円		

D. 小学校区コミュニティ活動支援事業

（市民協働課）

○事業の概要（目的、実施内容）

自治区を始めとした地域組織が、複雑・多様化する地域課題を解決し、持続可能かつ効率的な運営をしていけるよう、小学校区単位での活動を目的とした協議組織の立ち上げ支援を通して、小学校区コミュニティ組織の構築を目指す。

○事業の自己評価、成果等

住民主体での小学校区のコミュニティの構築に向けて、小学校の更新や新たな地域交流施設の建設を行う地域において、今後の地域づくりを協議する場を設けることができた。

【成岩小学校区】

成岩小学校敷地内に新たに建設する「（仮称）成岩地域交流施設」の管理・運営を検討するための「開館準備会」を発足させることができた。施設の活用可能性を当該地域に十分に周知するとともに、住民による住み続けたいまちづくりが形成されるよう継続的に伴走支援を行っていく必要がある。

【乙川東小学校区】

乙川東小学校の改築を行う計画であり、小学校・（仮称）地域交流施設・児童の居場所の機能を複合化した公共施設として建設する方針である。この複合化方針を発信する意見交換会を各所で開催するとともに、複合化とこれからの地域づくりについて協議する「地域の未来ミーティング」を展開したことにより、乙川東小学校区単位のコミュニティ組織での活動意識を醸成することができた。

今後も継続的に協議の場を展開し、住民主体で小学校区コミュニティの構築に向けた取組が進むよう伴走できる体制を形成する必要がある。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	812 千円	1,630 千円	2,064 千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】若い世代の定住を促進

E. 若者市民協働意識醸成事業

（市民協働課市民交流センター）

○事業の概要（目的、実施内容）

次代を担う若い世代が市民協働や地域貢献を考えるための機会を創出し、さらなる市民協働の推進を図ることを目的に、市内の大学生が市民活動団体による活動プレゼンテーションや、協働意識の醸成を図る授業を聞き、さらに団体の活動を実際に体験した。

○事業の自己評価、成果等

参加学生の多くが市民活動の内容を理解し、学生の社会貢献や協働への関心を高めることができた。一方で、市民活動団体からは、プレゼンに関する反省の声が聞かれ、団体のプレゼン力の向上など団体支援の必要性を感じた。また、学生の参加が「授業だから」で終わることなく、継続的な関わりにつながる仕組みづくりが課題である。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	271 千円	265 千円	249 千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】若い世代の定住を促進

②まちのイメージの向上

○主要な事業、取組

A. シティプロモーション推進事業

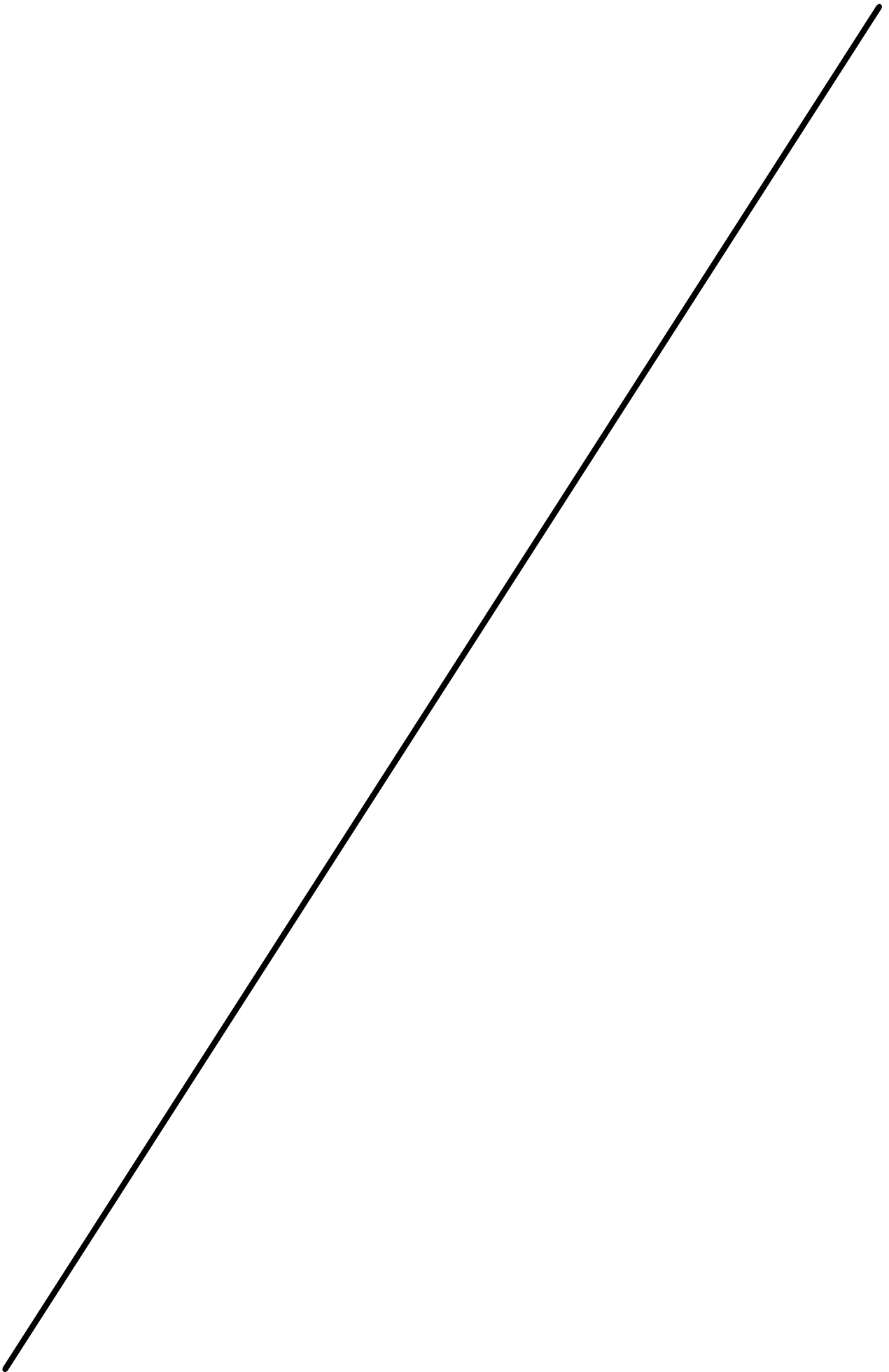
（企画課）

○事業の概要（目的、実施内容）					
定住人口の獲得を目指して、本市の都市イメージの向上と市民の愛着の醸成を図るための施策を展開する。 都市イメージの向上につながる取組として、テレビやラジオなどのメディアへ直接アプローチするプロモート活動やプレスリリース配信サービス「PRタイムズ」への配信など情報発信を強化した。また、市のPRと市民の愛着醸成につながる取組として、SNS（市公式インスタグラム）を活用した広報、はんだの魅力発見ツアーの開催等を実施した。					
○事業の自己評価、成果等					
本市の露出度を高める取組により、毎年認知度調査では、『半田市を知っている人』・『半田市に良いイメージを持つ人』の割合が上昇するなど認知度・イメージ向上につなげることができた。 市内外にまちの魅力を発信することで、まちへの誇りや愛着の醸成につながるとともに、移住定住の前提となる本市のイメージ向上の一助となった。しかし、周辺市町と比較すると人口減少率が高く、定住人口の獲得は大きな課題である。					
○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	地方創生推進 タイプ
	4,758 千円	8,381 千円	8,133 千円		

B. はたらく親を応援する団体育成事業

（市民協働課市民交流センター）

○事業の概要（目的、実施内容）					
「はたらく親を応援するまち」の実現に向けて、家庭の多様なニーズに応じた支援を行う市民活動団体を育成支援するプロジェクト。市民活動団体に対し、プレゼンテーションスキル向上のための研修を実施し、市民投票で、市民の共感を得られた団体へ活動資金の支援をすることで、はたらく親のニーズに応じた活動を推進した。					
○事業の自己評価、成果等					
市民投票を通じて市民からのフィードバックが得られ、市民との意見交換が実現し、団体の活動を市民に知ってもらう機会となった。しかしながら、市民投票の回答率は低く、広く市民を巻き込むための情報発信が課題である。					
○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	-	672 千円	1,367 千円		



令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（基本目標）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

基本的方向

- ☐ 畜産農家と住民との相互理解を深める中、臭気への環境対策を進め、良好な生活環境を確保します。
- ☐ 災害への備えを充実するなど、安心して安全な生活環境づくりを推進します。
- ☐ 市民がまちの歴史や文化にふれる機会を増やし、ふるさとに誇りや愛着の持てるまちづくりを進めます。
- ☐ 市民の日常的な健康づくりを促進するとともに、医療体制の充実に取り組みます。
- ☐ 国籍・民族等の異なる人々が互いの文化的な違いを認め、対等な関係のもとで共に生きていく社会の実現に取り組みます。

【基本目標における数値目標の実施状況】

指 標	基準値 (2019)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2025)	達成度
これからも半田市に住みたいと思う市民の割合	57.8% (2020調査)	68.3% (2021調査)	72.5% (2022調査)	62.6% (2023調査)	58.5% (2024調査)	63.2% (2025調査)	75.0%	B
目標値に対する達成率		61.0%	85.5%	27.9%	4.1%	31.4%		

※市民アンケートに基づく指標。アンケートの概要等は次ページを参照。

庁内全体評価

※取組に対する全体評価、
基本目標における数値目標
に対する達成状況、
今後の課題等

【指標について】

本指標は、様々な施策を総合した結果であり、生活環境やまちの安全性の向上、医療体制の充実、文化振興等の取組を幅広く進めたものの、目標値を下回る結果となった。

年代別でみると、若い世代（39歳以下）における住みたいと思う市民の割合は48.1%（基本目標3 施策ⅢのKPI）であり、「どちらともいえない」の割合46.3%と拮抗している。特に若い世代は進学・就職・婚姻等による転出機会も多いため、本市の住みやすさや充実した施策をPRすることにより、「どちらともいえない」という状態からの転換を図る必要がある。

【取組について】

前述の状況もふまえ、本市では、移住・定住促進の施策として特に子育て世帯をターゲットに「はたらく親を応援するまち」という都市イメージの構築を目指した取組を進めている。子育て世帯・若い世代に対して本市の施策や魅力をPRすることにより、本市に住みたいという意識を醸成していく。

また、基本目標4では令和6年度に以下の取組を新たに実施した。

○「知多半島総合医療センター」の建設による医療体制の充実（施策Ⅳ、令和7年4月開院）

○同センター敷地内における防災広場の建設による防災対策の推進（施策Ⅱ）

○音楽マルシェの初開催による文化振興（施策Ⅲ）

○第2次半田市多文化共生プランの策定による外国籍市民との多文化共生の推進（施策Ⅴ）

これらの新規取組や既存の取組を積み重ねていくことにより、魅力的なまちづくりにつなげていく。

有識者会議全体評価（意見・提言）

有識者会議全体評価

B



委員の内訳

AA … 0人
A … 1人
B … 8人
C … 0人

第2期総合戦略
各年度の評価

・ R3年度：A
・ R4年度：A
・ R5年度：A
・ R6年度：A

○良いところ、伸ばしていくべき部分

【全体】

未達成の指標はあるが、それぞれの取組において課題の明確化や改善が図られている。

【安心・安全なまち、快適なまち】

災害への備えとして、自助・公助・共助の視点から取組が行われており、「安心・安全なまちづくり」につながっている。基本目標4の名称のとおり、今後は「快適な環境」も目指した施策をさらに進めていけるとよい。

○改善が必要な部分

【防犯】

自転車盗の増加等により、KPI「半田市内の刑法犯の発生件数」が増加している。防犯カメラの設置による対策を強化していることは評価できるが、併せて、犯罪抑止につながるような啓発や意識醸成もさらに取り組めるとよい。

【文化の継承と創造の推進】

博物館の企画展「全国鉱物採集の旅」の開催により、文化施設利用者が増加したことは評価できる。一方で、KPI「郷土の文化に関心を持っている市民の割合」は横ばいで伸び悩んでいる。「文化の継承と創造の推進」という観点から、KPIの向上につながる情報発信等の取組を進められるとよい。

【健康課公式Instagram】

健康課の公式Instagramでの情報発信にあたっては、若者をターゲットとして、特化した情報を発信できるとよい。

【多文化共生の推進】

人口に占める外国籍市民の割合が増加している状況にあるが、KPI「多文化共生という言葉聞いたことがある市民の割合」は依然として低い。多文化共生への意識醸成を図っていくために、特に日本人市民に向けた取組を進められるとよい。

【市民アンケート】

毎年度、市民を対象としてアンケートを実施している。令和6年度の調査概要や結果は以下のとおり。

○対象者：市内在住の18歳以上の2,000人（無作為抽出）

○調査方法：郵送配布、郵送・電子回答

○調査時期：令和7年3月14日～4月7日

○有効回答者数：642人（有効回収率：32.1%）

〔うちインターネット回答270人（インターネット回答率42.1%）〕

●年代別の「これからも半田市に住みたいと思う市民の割合」の結果

年代	住み続けたい		住み続けたくない		どちらとも いえない		合計
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	
18-24 歳	24	45.3%	7	13.2%	22	41.5%	53
25-29 歳	19	45.2%	1	2.4%	22	52.4%	42
30-34 歳	29	46.8%	2	3.2%	31	50.0%	62
35-39 歳	39	52.7%	3	4.1%	32	43.2%	74
40-44 歳	50	52.6%	6	6.3%	39	41.1%	95
45-49 歳	39	63.9%	1	1.6%	21	34.4%	61
50-59 歳	39	73.6%	2	3.8%	12	22.6%	53
60-69 歳	29	74.4%	3	7.7%	7	17.9%	39
70歳以上	134	85.4%	3	1.9%	20	12.7%	157
【全体】	402	63.2%	28	4.4%	206	32.4%	636
【39歳以下】	111	48.1%	13	5.6%	107	46.3%	231

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる
【施策Ⅰ】 畜産への理解促進と良好な生活環境の確保

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指 標	基準値 (2019)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
全畜産施設の 敷地境界上における 臭気指数15以下の割合	92.6%	94.5%	96.3%	97.9%	92.9%	94.2%	100.0%	B
	達成率	25.7%	50.0%	71.6%	4.1%	21.6%		
	庁内評価							
	令和6年度は計3回の臭気測定を行ったが、第1回目は市内全畜産施設（47施設）に対して、2回目は14施設、3回目については13施設を対象を絞り、延べ74件の測定を実施した。 その結果、第1回目は43件、第2回目は13件、第3回目は10件について、市が注意喚起の目安とする臭気指数15以下の基準を満たしていた。第2回目及び第3回目は全畜産施設に対して測定を行っていないが、測定を行っていない施設は過去の測定結果から基準を満たしているとみなすと、全3回のトータルで94.3%（132件／140件）が基準を満たしていると評価できる。							

指 標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
はんだふれあい 産業まつり入場者数 ※半田運動公園会場のみ	22, 000人	0人	0人	15, 000人	0人 (※)	11, 000人	23, 000人	C
	達成率	基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満		
	庁内評価							
	目標値には届かなかったものの、幅広い年齢層の来場があり、半田商 工会議所青年部によるイベントや農畜産物の各種即売、知多牛の試食等 が開催され、地域産業を支える事業者や取組を広くP Rすることができ た。							

※2023年度：はんだ山車まつり開催年度のため、JFE会場のみ

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅰ】畜産への理解促進と良好な生活環境の確保

①畜産ふん尿の臭気対策の推進 / ②畜産農業に対する理解の向上

○主要な事業、取組

A. 畜産臭気監視事業

（環境課）

○事業の概要（目的、実施内容）

良好な住環境を確保するため、畜産施設から発生する臭気が基準に超過していないか監視する。また、大同大学との共同研究で得た知見を基に、産業課と連携し、本市の長年の課題である畜産臭気問題の解決を図る。

大同大学との共同研究で開発した簡易臭気センサーを活用し、継続して市内の畜産施設における臭気測定を実施し、畜産臭気の発生状況を監視する。また、臭気低減の参考としていただくため、測定結果を全畜産農家に通知する。

○事業の自己評価、成果等

産業課との連携による継続的な臭気測定と畜産農家への測定結果の通知、強い臭気の発生している施設に対する指導・助言等により、ほとんどの畜産施設において目標指数である臭気指数15以下が達成されているが、目標値である100%を達成することはできなかった。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	581 千円	609 千円	627 千円		

B. 畜産環境対策推進事業

（産業課）

○事業の概要（目的、実施内容）

市内では、まちの近くで多くの頭数を飼う集約的近郊酪農を行っている。牛の飼育頭数は約11,500頭であり、ふん尿による臭気が問題として取り上げられている。畜産臭気軽減のために環境対策推進の各種補助金を交付することで、畜産環境対策の推進に努める。

○事業の自己評価、成果等

消臭等資機材の使用や耕畜連携における堆肥の搬出をすることで、一定程度畜産臭気の軽減が図れている。しかし、問題を完全に解決することが難しいため、今後も臭気対策を継続して行っていく必要がある。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	3,099千円	3,473千円	4,000千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅰ】畜産への理解促進と良好な生活環境の確保

C. はんだふれあい産業まつり開催事業

（産業課）

○事業の概要（目的、実施内容）

地元商業、工業、農業の各分野から幅広い団体に対し、参加を呼びかけるとともに、魅力ある企画を取り込みながら、現地の産業活動をPRすることで、地産地消の促進及び産業振興を応援する。令和5年度は、はんだ山車まつり開催年度のため、JFE会場のみで開催した。

○事業の自己評価、成果等

JFEスチール会場と半田びよログスポーツパーク会場で計2日間開催し、ステージイベントや出店ブースを始め工場見学・体験コーナー、農畜産物の各種即売・知多牛の試食等が行われた。来場者数の目標値には届かなかったものの、幅広い年齢層の来場があったため、地域産業を支える事業者や取組を広くPRすることができた。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	1,000 千円	5,000 千円	5,000 千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる
【施策Ⅱ】 安心・安全なまちづくりの推進

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指 標	基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
災害に対する備えが できていると思う 市民の割合	21.1%	38.8%	38.9%	39.4%	36.5%	44.0%	50.0%	B
	(2019)	(2020)	(2021)	(2022)	(2023)	(2024)	(2025)	
	達成率	61.2%	61.6%	63.3%	53.3%	79.2%		
庁内評価								
基準値と比較して22.9ポイント増加した。2024年に発生した能登半島地震や、防災訓練、防災キャンプ等の開催を通じて、市民の防災に対する意識が高まったことが前年からの数値向上の要因と考えられる。								

指 標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
半田市内の空家等戸数	736戸	601戸	591戸	574戸	562戸	551戸	736戸	A
	(2018)	(2020)	(2021)	(2022)	(2023)	(2024)		
	達成率	▲135戸	▲145戸	▲162戸	▲174戸	▲185戸		
庁内評価								
基準値である736件の空き家のうち、令和6年度中に建設リサイクル法の届出により解体が確認できたものが、11戸あったため、前回調査で判定した562戸から除し551戸とした。しかしながら、新たに発生した空き家や利活用など解体以外の方法によって空き家が解消した実数は補足できていない。空き家の情報を一元管理できるよう、データベースの構築を目指す。								

指 標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
半田市内の刑法犯の 発生件数 (件／年)	695件	472件	431件	470件	616件	742件	600件	C
	(2018)	(2020)	(2021)	(2022)	(2023)	(2024)		
	達成率	234.7%	277.9%	236.8%	83.2%	基準値超過		
庁内評価								
愛知県全体で刑法犯の発生件数は51,025件（前年比＋4,193件）と増加しており、当市も同様に742件（前年比＋126件）と増加した。市内全域に防犯カメラ150台と啓発看板2,000枚を設置し、見守りの目を増やすことで犯罪抑止及び市民の体感治安や防犯意識の向上を図り、市内全体の防犯環境を整えた。 また、県下でも増加傾向にある侵入盗も当市は40件（前年比＋12件）と増加しており、犯罪の発生頻度が高い夜間の環境良化を進めるため、今後も防犯灯の設置を進めていく。								

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅱ】安心・安全なまちづくりの推進

①災害に備えた対策の推進 / ②地域防災活動の推進

○主要な事業、取組

A. 災害対策事業

(防災安全課)

○事業の概要（目的、実施内容）

市民の生命及び財産を守るため、地域の防災力を強化し、災害による被害の軽減を図る。防災訓練や防災キャンプでの啓発を通じ、市民一人ひとりの防災意識の向上を図る。また、市内の先進的な避難所運営の取組事例を普及し、市全体の防災力の向上につなげる。

○事業の自己評価、成果等

総合防災訓練や自主防災会連絡会を通じて、先進事例や訓練のやり方、進め方について水平展開していった結果、住民主体の避難所開設訓練等の実施場所を増やすことができた。また、被災地ボランティア派遣について自主防災会を中心に参加してもらい、実際の被災現場の状況や避難所運営の手法を見て学ぶことで防災意識の向上と地域の防災力強化を図ることができた。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	9,579 千円	10,551 千円	10,153 千円		

B. 防災広場整備事業

(防災安全課)

○事業の概要（目的、実施内容）

大規模地震が発生した場合、被災初期には傷病者搬送用ヘリポート、中期には自衛隊等の宿营地、後期には被災者用の仮設住宅建築場所として、また、一角にはトラックが横付けできる大型防災倉庫を備えるなど、幅広く活用できる防災広場を建設する。

○事業の自己評価、成果等

中央防災倉庫の建設工事及び防災広場の外構工事を遅滞なく完了することができた。知多半島総合医療機構と覚書を締結し、防災広場について運用方法を整理した。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	110,730 千円	500,085 千円	3,108 千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅱ】安心・安全なまちづくりの推進

③空き家対策の推進

○主要な事業、取組

A. 老朽化建築物取壊促進・空家対策事業

（建築課）

○事業の概要（目的、実施内容）

大地震時に倒壊し、二次災害を引き起こす可能性の高い老朽化建築物やブロック塀の取壊・撤去補助の実施及び空家の適正管理を推進することで減災化を図る。

○事業の自己評価、成果等

老朽化建築物の取壊しについては、補助制度が浸透しており、目標値を達成することができた。ブロック塀等の撤去については、目標値は下回ったものの前年度実績値並みの実施ができた。空き家対策としては、特定空家等1件を略式代執行による除却を行い、また所有者からの相談に応じて、宅建協会等協定先につなぐなど所有者に寄り添った支援に努めた。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	18,213 千円	16,080 千円	22,469 千円		

④防犯対策の充実

○主要な事業、取組

A. 防犯活動事業

（防災安全課）

○事業の概要（目的、実施内容）

「半田市安全なまちづくり条例」に基づき、地域団体や警察、学校、企業等と連携した防犯啓発活動や、市民が気軽に参加することのできる防犯活動への参加促進に努め、「安心・安全なまちづくり」の推進を図る。

○事業の自己評価、成果等

点ではなく面での防犯を意識して、市内全域に防犯カメラ150台と啓発看板2,000枚を設置し、見守りの目を増やすことで犯罪抑止及び市民の体感治安や防犯意識の向上を図り、市内全体の防犯環境を整えた。また、特殊詐欺被害や闇バイトへの加担も増加傾向にあるため、警察や中学生と協働し被害防止啓発のため令和6年8月3日を「闇バイトの日」に制定し、ポスターコンクール・キャンペーンを実施した。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	1,455 千円	7,252 千円	13,304 千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅱ】安心・安全なまちづくりの推進

B. 小学校防犯カメラ整備事業

（学校教育課）

○事業の概要（目的、実施内容）					
学校がより安全で安心できる場所となるよう、学校侵入防犯対策として防犯カメラを設置する。					
○事業の自己評価、成果等					
令和6年度は7小学校において、各校6～8台の防犯カメラを設置し、安心・安全な学校づくりを進めることができた。なお、各校における防犯カメラの設置場所については、警察と協議、調整の上、校内や昇降口付近とした。					
○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	0 千円	9,526 千円	11,735 千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる
【施策Ⅲ】文化の継承と創造の推進

◎ 重要業績評価指標（K P I）の達成度と評価

指 標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
文化施設利用者数 (人／年)	198,418 人	83,175 人	143,715 人	180,990 人	194,865 人	218,207 人	220,000 人	B
	(2018)	(2020)	(2021)	(2022)	(2023)	(2024)	(2024)	
	達成率	基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満	91.7%		
	庁内評価							
(対象施設) ・ 雁宿ホール ・ 博物館 ・ 新美南吉記念館	【瀧上工業雁宿ホール（大ホール）：52,952人（5年度：52,657人）】 講座・イベントを、鑑賞型から体験型へ移行するとともに、他のイベントとの共同開催により、「誰でも」「いつでも」「どこでも」気軽に音楽や文化芸術に触れられる機会を拡充することができた。 瀧上工業雁宿ホールは、開館から37年が経過し、施設の老朽化対策が課題となっている。安全・安心な施設利用のための維持管理の視点から、事故を未然に防止し、会館運営に支障をきたさないよう、適切な改修に努める。							
	【博物館：111,868人（5年度：88,865人）】 企画展「全国鉱物採集の旅」とその期間中の講演会や体験イベントが好評で、企画展来場者は対前年度比63.3%増となった。また、企画展の資料や博物館が収蔵している美術品の一部をデータ化し、デジタルサイネージで展示に合わせて公開した。常設展示では山車の展示に併せて3つ山車組による三番叟人形の舞や祭り囃子の披露を行うなど、祭り文化の魅力を発信した。これらの魅力的な展示に取り組んだ結果、来館者数は対前年度比25.9%増加することができた。							
	【新美南吉記念館：53,387人（5年度：53,343人）】 入館者数は、令和5年度とほぼ横ばいであった。大人の一般・団体客は前年度より増加している。令和6年度の特別展は、“南吉の読書”をテーマに人気ゲーム「文豪とアルケミスト」とタイアップを行い、新しい客層の開拓を図った。							

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】文化の継承と創造の推進

指 標	基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
郷土の文化に関心を持っている 市民の割合	51.1%	49.5%	52.2%	52.2%	44.2%	50.4%	65.0%	C
	(2019調査)	(2021調査)	(2022調査)	(2023調査)	(2024調査)	(2025調査)	(2025調査)	
	達成率	基準値未満	7.9%	7.9%	基準値未満	基準値未満		
	庁内評価							
	博物館において、市内の山車等の常設展示のほか、企画展、館蔵品展、文化財よもやま話や古文書等の講座を開催するとともに、市が所有管理する国指定重要文化財建造物「旧中埜家住宅」の特別公開や関連行事を通じて、郷土の歴史文化の魅力を発信するとともに、市民の地域に対する愛着と誇りの醸成を図った。 新美南吉記念館は、平成6年に開館し令和6年で30周年を迎えた。企画展“新美南吉記念館30周年の歩み”として当館のこれまでの活動と南吉にまつわる出来事をパネルと資料で紹介した。また、開館30年の歩みの動画を作成し、YouTubeで配信した。南吉のふるさと半田とともに歩んだ30年を多くの方に視聴していただいた。							

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】文化の継承と創造の推進

①文化の振興

○主要な事業、取組

A. 文化芸術普及推進事業

（生涯学習課）

○事業の概要（目的、実施内容）

市民が文化芸術に対する興味を持つきっかけをつくったり、親しみをより深めてもらったりすることを目的に、まちなかや身近な場所で文化や芸術に触れ体験や鑑賞ができる事業を実施する。また、そういった文化芸術に関する情報を確実に届ける仕組みを構築する。

まちなかでアート、半田市美術展、親子観劇会等各種公演の実施、文化活動全国大会等出場激励金支給、半田市文化協会事業費補助などを実施する。

○事業の自己評価、成果等

瀧上工業雁宿ホールなど拠点施設での公演を中心とした文化芸術事業の展開から、市民がより身近に文化芸術を感じられるよう、“まちなか”でのパフォーマンスやワークショップを行う取組に転換を図っている。とりわけ令和6年度は、「アール・ブリュット展」をサテライト会場（市内2か所のカフェ）で実施するなど、新たな取組も始めている。

鑑賞型から体験型への講座・イベントへシフトするとともに、他のイベントとの抱き合わせ実施による相乗効果も生まれ、「誰でも」「いつでも」「どこでも」、そして気軽に文化芸術に触れられる機会が拡充している。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	地方創生推進 タイプ
	4,646 千円	5,803 千円	5,075 千円		

B. 音楽のあるまちづくり事業

（生涯学習課）

○事業の概要（目的、実施内容）

令和2年8月26日付で公益社団法人セントラル愛知交響楽団と締結した「半田市音楽文化振興に関する協定」に基づく事業を始め、音楽のあるまちづくりを推進するための各種音楽関連事業を実施する。

セントラル愛知との協定事業（公演事業、小・中・幼・保等でのアウトリーチ・ワークショップ等）の他、多種多様なジャンルの公演等を実施する。

○事業の自己評価、成果等

半田市文化芸術推進計画の基本目標である「子どもの頃に多様な文化芸術に触れられるまち」を特に意識して、「アニマルコンサート」や「畳でコンサート」の開催など、未就学児を含めた親子で参加できるイベントを拡充した。

また、初開催となった「第1回音楽マルシェ」が象徴するように、鑑賞だけではなく体験の要素を各イベントに多く取り込んでいくことで、音楽文化を全身で体感できる機会を増やすことができた。「音楽マルシェ」においては、3,000人以上の集客があり、その他集客増となったコンサートも含めて、例年以上に、より多くの人たちに音楽文化に触れてもらう機会を創出することができた。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	11,047 千円	11,696 千円	11,823 千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】文化の継承と創造の推進

②文化財の保存継承と活用

○主要な事業、取組

A. 文化財等公開活用事業

（博物館）

○事業の概要（目的、実施内容）

指定文化財や登録文化財、文化財には指定されていないが地域の貴重な資料、博物館の収蔵資料等を、博物館を拠点とした展示や講座、情報発信等の公開活用を行うことで、市民自らが文化財等の保存継承の担い手として活躍していくための意識を高めるため、その基となる郷土の自然、歴史、文化に対する愛着と誇りを育てる。

○事業の自己評価、成果等

常設展示室2の山車の展示替えを行うとともに、今年度は3つの山車組による三番叟（前棚人形）や祭り囃子の披露を行ったことで、市民に祭り文化への親しみをもってもらう機会を提供できた。また、企画展で展示している資料や、博物館で収蔵している美術品の一部をデータ化し、デジタルサイネージで展示に合わせて公開した。これにより、常時公開していない資料を活用することができた。

さらに、令和2年度に作成した半田市文化財ガイドマップに新たに登録・指定された文化財を追加したものを新しく作成し、公共施設や文化財所有者に配布をしたことで、半田市の文化財の周知をすることができた。今後はさらに資料のデジタル化を進め、新しく導入した媒体も活用しつつ情報発信を続けていく必要がある。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	3,428 千円	2,960 千円	3,256 千円		

B. 旧中埜家住宅整備事業

（博物館）

○事業の概要（目的、実施内容）

重要文化財旧中埜家住宅の後世への継承という大きな目的を達成するため、「保存」及びさらなる「活用」に必要な整備や修理を行う。

○事業の自己評価、成果等

展示ケースの制作により、棟札の複製が安全に展示可能となり、常設展示を充実させることができた。さらに、ふるさと納税で得た寄附金を活用して旧中埜家住宅を紹介する動画資料を制作し、YouTubeで公開することで同建物に関する理解を深める環境を整えた。また、敷地外に炎感知器を設置したことにより、火災発生時にはセコム(株)に連絡が入るようになり安全性が向上した。

今後は、公開日数を増やすとともに、地域住民や次世代を担う子どもたちの認知度・関心を高める必要がある。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	1,517 千円	4,208 千円	0 千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】文化の継承と創造の推進

C. 企画展開催事業【博物館】

（博物館）

○事業の概要（目的、実施内容）

常設展示の内容を補完する展示事業として、テーマや期間を設けた企画展・館蔵品展等を開催する。企画展では主に他館等から貴重な資料を借用し、館蔵品展では主に当館で収蔵している美術品や一般資料などを展示する。

○事業の自己評価、成果等

企画展「全国鉱物採集の旅」の来館者数は32,391人（昨対比+12,556人）で、3万人の大台を超えたのは平成11年の特別展以来25年ぶり、博物館40年の歴史の中でも歴代7位の記録となった。期間中には、記念講演会やミネラルファンデーション作り、鉱物さがし体験など様々なイベントを行い好評であった。

9月～11月の開館40周年記念展の枠では、後半に展示を入れ替えて図書館主催の「間瀬なおかた絵本原画展」を開催し、小さな子ども連れの親子にも好評だった。また、12月には愛知県美術館が毎年開催している「移動美術館」を初めて半田で開催し、県美術館グッズの委託販売を行うなど、新たな試みを行うことができた。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	1,983千円	1,932 千円	1,999 千円		

D. 企画展開催事業【新美南吉記念館】

（新美南吉記念館）

○事業の概要（目的、実施内容）

南吉の魅力発信のために、時宜的な話題を捉えつつ、南吉とその文学をテーマにした企画展・特別展を開催する。令和7年度は、安城高等女学校時代の南吉の教え子たちの多くが100歳となる今年、彼女たちが南吉から何を感じ、語ってきたのか教え子たちの声を紹介する。秋の企画展は、南吉が暮らし、作品に描いた当時の岩滑について取り上げる。

○事業の自己評価、成果等

令和6年度の特別展1日あたりの観覧者数は、生誕110年の令和5年度の観覧者数には届かなかった。要因の一つとして彼岸花の開花が遅れ、咲きそろわなかったことが少なからず影響を与えた。しかし、特別展は新しい切り口としてゲームとのタイアップを行ったことで、SNSでの好反応が顕著に見られた。観光のついでではなく、目的となるような展示が求められる。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	2,976千円	3,314千円	3,209千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】文化の継承と創造の推進

E. 新美南吉童話賞事業

（新美南吉記念館）

○事業の概要（目的、実施内容）

本事業は南吉作品の普及と南吉顕彰を進め、ふるさと半田への関心を高めるとともに、児童文学の振興に寄与することが目的である。令和6年度より、新たな取組としてロゴフォーム（行政手続き等を電子申請で行えるツール）での応募受付を始めた。

○事業の自己評価、成果等

応募数が昨年度より増加し、ロゴフォームによる応募数が462編と全体の約3割を占める結果となった。中でも20代～30代は約8割がロゴフォームによる応募であり、若年層の応募促進に効果を上げることができた。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	3,170千円	3,882千円	3,261千円		

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる
【施策Ⅳ】健康づくりの推進と医療体制の充実

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指 標	基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
メタボリックシンドローム該当者の割合	25.3%	24.5%	26.1%	27.1%	27.4%	26.1%	20%	C
	(2018)	(2019)	(2020)	(2021)	(2022)	(2023)	(2023)	
	達成率	15.1%	基準値超過	基準値超過	基準値超過	基準値超過		
	庁内評価 特定保健指導利用率が5.6%増加したことも影響し、メタボリックシンドローム該当率が1.3ポイント減少した。メタボ該当者割合の年代別、性別でみると、40歳代のメタボ該当者割合は大幅に改善しており、特に40歳代前半の男性のメタボ該当者の割合は昨年度に比べ10.8ポイント減少した。							

指 標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
半田病院における入院全体について「ほぼ満足である」以上の評価をした患者の割合	88.9%	79.6%	79.0%	80.9%	79.8%	81.7%	90%	C
	(2018)	(2020)	(2021)	(2022)	(2023)	(2024)	(2024)	
	達成率	基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿		
	庁内評価 コロナ以降、面会制限等は徐々に緩和されており、回復基調にはあるが、人数や時間の制限は続いており、コロナ以前の水準となるには時間を要する。 ※なお、無回答を除く「ほぼ満足である」以上の割合は以下のとおり (R3：84.0%、R4：85.2%、R5：84.8%、R6：86.6%)							

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅳ】健康づくりの推進と医療体制の充実

①健康づくりの推進

○主要な事業、取組

A. 健康づくり推進事業

（健康課）

○事業の概要（目的、実施内容）

健康寿命の延伸および自殺者の減少のため、年齢を問わず市民一人ひとりの身体とこころの健康づくりを推進する。そのため、健康講座、健康相談および人材育成等を行う。

○事業の自己評価、成果等

半田市の健康課題を捉えた総合的な健康づくり施策を推進する「第3次健康はんだ21計画・半田市いのちを支える計画（第2次自死対策計画）」を策定した。
年代や性別に合わせた講座等を実施し、市民へ健康づくりに関する知識の普及・啓発ができた。
子育て世代のエクササイズ教室では、育児や家事に忙しく運動の機会が少ない子育て世代を対象に運動を始めるきっかけづくりを提供することができた。
学校教育課と連携し、ゲートキーパー養成講座を令和5～6年の2年間で市内すべての中学校で実施した。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	1,395 千円	1,807 千円	1,925 千円		

B. どこでもスポーツ推進事業（再掲：基本目標2_施策Ⅰ）

（スポーツ課）

○事業の概要（目的、実施内容）

スポーツ推進計画の基本理念である【どこでもスポーツが親しめるように】のうち、「場所を選ばないスポーツを推進します。」について、推進が図られていないため、公共施設の空きスペースを活用し、スポーツイベントを開催することで、スポーツを「見る」「触れる」機会を創出し、どこでもスポーツの推進を図る。併せて、市がイベントを実施し集客性を示すことで、民間団体主催のスポーツイベント開催につなげる。

○事業の自己評価、成果等

これまでにない場所及び様々なジャンルと複合的に開催することで、大いに盛り上がる新たなスポーツイベントを実施することができた。その結果、はんだふれあい産業まつりにおいて、半田市バスケットボール協会主催による開催につなげることができた。
引き続き、様々なスポーツにおいて、既存の枠組みに囚われない新たな実施方法を模索しつつ、誰もが楽しめるスポーツイベントの企画・運営を実施していき、さらに民間団体主催のイベント開催を目指す。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	0 千円	1,651 千円	1,526 千円		

○その他の事業、取組

C. 健康づくりの啓発・周知に関する取組

（健康課）

健康課公式インスタグラムを開設し、若い世代へ向けて情報発信を行った。また、イオン半田店内に「はんだ健康情報ステーション」を設置し、市民の健康意識と利便性の向上を図ることができた。

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅳ】健康づくりの推進と医療体制の充実

②医療体制の充実

○主要な事業、取組

A. 病院経営事業（半田病院）

（健康課）

○事業の概要（目的、実施内容）

市民の福祉、健康保持に必要な安全で安心かつ質の高い医療を提供するため、救急・がんなどの高度医療や、地域の医療機関等との役割分担、連携の中心的な役割を果たすとともに、効率的で健全な経営を継続する。

○事業の自己評価、成果等

経営統合予定の常滑市民病院と緊密な医療連携・機能分担を行い、限られた人員・医療環境の中で、効率的な事業運営に努めるとともに、新病院移転に向けた診療制限においても地域の医療機関や県下の他の3次救急医療機関と連携し、救急医療を始めとする政策的医療を提供し、地域の基幹病院としての役割を果たした。

地域の医療機関との連携を図る中で紹介率は86.6%（前年度比+0.9%）、逆紹介率は124.0%（前年度比+13.7%）となり、平均在院日数の短縮にもつながった。

経営状況は、診療報酬改定を上回る人件費や物価高騰に加え、新病院建設に伴う医業外費用（控除対象外消費税）の増が大きく影響し、25億円の赤字決算となっているが、当初予算の赤字（33億円）を大幅に縮減することができた。

○事業費	収益的支出	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	資本的支出	15,651,948 千円	18,242,433 千円			
		2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)		
		10,030,613 千円	21,616,231 千円			

B. 新病院建設事業（知多半島総合医療センター）

（健康課）

○事業の概要（目的、実施内容）

現病院の老朽化・狭あい化、耐震面での課題を解消し、最新医療機器の導入とあわせて急性期医療をさらに高度化するとともに、新たな感染症にも対応でき、大規模な自然災害時にも継続可能な新病院を建設する。

令和7年春の開院に向けて、新病院の建設設計、医療コンサルタント、新病院建設工事、工事監理等を実施する。

○事業の自己評価、成果等

新病院建設事業については、予定どおり令和6年10月末に竣工し、新たな医療機器備品等の購入、医療情報システムの構築を完了させるとともに、新病院での運用を想定した総合的なリハーサルや移転リハーサルの実施など、円滑な開院に向けて事業を進めた。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	9,477,993 千円	16,409,864 千円			

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる
【施策Ⅴ】多文化共生の推進

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指 標	基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
多文化共生に関する啓発の実施回数 (回／年)	1回 (2018)	3回 (2020)	3回 (2021)	5回 (2022)	3回 (2023)	4回 (2024)	5回	B
	達成率	50.0%	50.0%	100.0%	50.0%	75.0%		
	庁内評価							
	外国籍市民向けの多文化災害ボランティア養成講座、市職員向けの多文化共生講座、市民向けの多文化共生理解促進講座に加え、新たに地域と協働し、自治区での防災訓練において多文化共生推進基礎講座を実施することにより、多文化共生に関する啓発につなげる事業等を展開することが出来ている。							

指 標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
多文化共生という言葉を知ったことがある市民の割合	58.4% (2019)	39.9% (2021調査)	45.8% (2022調査)	47.6% (2023調査)	46.3% (2024調査)	46.5% (2025調査)	80% (2025)	C
	達成率	基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満		
	庁内評価							
	言葉の認知度としては昨年度から微増であるが、市が単独実施する事業に加え、地域が市と協働で多文化共生の視点を取り入れた防災事業やイベントを開催するなど、地域における多文化共生の推進は広がっている。							

令和7年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅴ】多文化共生の推進

①多文化社会を支えるひとづくり・まちづくり / ②共生のための支援

○主要な事業、取組

A. 多文化共生推進事業

（市民協働課）

○事業の概要（目的、実施内容）

「多文化共生プラン」に基づき、「多文化を支えるひとづくり」「共生のための支援」「協働によるまちづくり」を基本目標に、様々な施策により外国籍市民が地域住民と共生する多文化共生社会の実現を目指す。

外国籍市民のための行政窓口での支援、日常生活のための日本語教室開催や相談窓口による支援、外国籍市民との交流を目的とした事業などを実施するとともに、半田市多文化共生プランを改定する。

○事業の自己評価、成果等

多言語相談窓口の運営やSNSを活用した行政情報等の発信により、外国籍市民への生活支援に貢献するとともに、イベントや講座等多様な事業展開により、市民への理解促進につなげることができた。また、さらなる多文化共生推進のため、行政だけでなく様々な主体と連携した施策の推進体制を掲げた「第2次半田市多文化共生プラン」を策定した。

○事業費	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6決算額)	2025年度 (R7予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	6,665 千円	7,336千円	16,469千円		

○その他の事業、取組

B. 日本語初期指導事業

（学校教育課）

日本語を話すことができない児童生徒に対して、初期の日本語指導や学校生活指導を一定期間集中的に行うことにより、学校生活への早期適応支援を行った。
（令和6年度実績：26人）

C. 外国語指導助手配置事業

（学校教育課）

外国語指導者（ALT）6名が市内小中学校及び幼稚園・保育園・子ども園を巡回し、外国語指導及び国際理解教育を行った。英語を母国語とする指導者が授業や学校生活に関わることで、児童生徒が外国語を話し伝えることができる喜びを感じ、また、異文化に触れる機会を増やしている。

5. デジタル田園都市国家構想交付金 対象事業の効果検証

【地方創生推進】 伝統のまち「はんだ」の魅力向上事業

(総合戦略 基本目標 1～4)

事業概要	観光・産業分野のほか、文化・芸術分野からも本市の新たな魅力を築き、新しい関係人口の創出を目指す。本市の醸造業等に着眼した食の観光推進のほか、市民がまちなかや身近な場所で文化や芸術に触れられる取組を行うことにより、新たな賑わいの創出や地域の活性化を図る。
主な取組	1. 観光振興事業 【基本目標 2・施策Ⅰ・①観光資源の充実と観光客の満足度向上】 名鉄とタイアップしたいいかも半田キャンペーン推進事業や「醸造・発酵」にスポットをあてた食の観光推進事業等を実施した。 いいかも半田キャンペーンによる広域PRやSNS広告の推進、旅行系インフルエンサーによるSNS観光情報発信などにより、新たな客層の誘客につなげることができた。 2. 文化芸術普及推進事業 【基本目標 4・施策Ⅲ・①文化の振興】 まちなかでアート等、市民が文化芸術に対する興味を持つきっかけをつくったり、親しみをより深めてもらったりすることを目的に、まちなかや身近な場所で文化や芸術に触れ体験や鑑賞ができる事業を実施した。 3. 商業施設助成事業 【基本目標 1・施策Ⅰ・③持続可能な商業の振興】 魅力ある個店の展開を支援することで、商業の活性化と市民生活の向上を図るため、商業施設（店舗）の内装工事にかかる新設・改装費用を補助する。令和6年度は、計14件の事業者に対して商業施設の設備費用等の補助を行ったことにより、商業の活性化及び魅力ある個店の展開につなげることができた。 4. シティプロモーション推進事業【基本目標 3・施策Ⅲ・②まちのイメージの向上】 本市の都市イメージの向上と市民の愛着の醸成を図るための施策を展開する。都市イメージの向上につながる取組として、プレスリリース配信サービス「PRタイムズ」への配信など情報発信を強化した。また、市のPRと市民の愛着醸成につながる取組として、SNS（市公式インスタグラム）を活用した広報、はんだの魅力発見ツアーの開催等を実施した。
事業費 (交付額)	28,421,220円 (14,210,610円) ※交付率1/2

交付金対象事業の各種指標（KPI）

No.	指 標	2021年度 (R3) 当初値	2022年度 (R4) 実績値 (目標値)	2023年度 (R5) 実績値 (目標値)	2024年度 (R6) 実績値 (目標値)
①	中心市街地の歩行者数（1日平均） （JR半田駅から半径450m圏内の歩行者数）	5,000人	6,917人 (5,500人)	6,790人 (6,000人)	6,985人 (6,500人)
②	デジタルクーポン利用者数 （半田めぐりんMAPデジタルのクーポン利用者数）	0人	1,464人 (8,610人)	1,962人 (10,849人)	事業廃止
③	鉄道キャンペーン参加者数 （名古屋鉄道㈱とのいいかも！半田キャンペーンにおけるチケット販売数）	30人	1,575人 (230人)	1,608人 (430人)	1,561人 (630人)
④	半田市観光協会が発信している 観光SNSのフォロワー数			8,863人 (8,900人)	9,658人 (10,000人)

有識者による効果検証

外部組織による本事業の評価	①	選択肢 (2択)	①地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ②地方版総合戦略のKPI達成に有効とはいえない
---------------	---	-------------	--

【地方創生推進】 農業起点の地域プラットフォーム創出による交流活性化事業

(総合戦略 基本目標1)

事業概要	農家の経営基盤強化と地域全体の農業価値を高める事業を展開する。農業を起点として地域プラットフォームを構築し、農家のモチベーションを高め、農業の持続性や農業を重要な地域資源として感じられる場と機会を創出する。これにより、本市の農業の価値を高め、より魅力的な地域を目指す。
主な取組	1. 6次産業化農業者支援プロジェクト事業 【基本目標1・施策Ⅱ・①担い手の育成・確保／②農業経営基盤の強化】 農業を起点とした地域プラットフォームの創出や農家の個力の向上、情報発信強化を目指し、農家の価値を高めるための支援を行った。その一つとして、農家とともに農業マルシェを開催して、農家主体の地域プラットフォーム「にこもぐ」を構築し、農家を起点とした地域活性化を推進した。これにより、農家の自主性向上、市民や行政とのつながりの強化、デジタル技術の活用促進を図ることができた。
事業費 (交付額)	3,944,294円(1,972,147円) ※交付率1/2

交付金対象事業の各種指標 (KPI)

No.	指 標	2022年度 (R4) 当初値	2023年度 (R5) 実績値 (目標値)	2024年度 (R6) 実績値 (目標値)	2025年度 (R7) 実績値 (目標値)
①	新規就農者数 (※各年度の就農者数)	1人	1人 (2人)	0人 (2人)	- (4人)
②	農業マルシェ開催数	0回	4回 (2回)	5回 (6回)	- (12回)
③	農業マルシェの農業者参加者数(年間累計)	0軒	63軒 (40軒)	65軒 (65軒)	- (110軒)
④	農業マルシェの来場者数(年間累計)	0人	3,300人 (1,000人)	2,400人 (2,750人)	- (5,000人)

有識者による効果検証

外部組織による本事業の評価	①	選択肢 (2択) ①地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ②地方版総合戦略のKPI達成に有効とはいえない
---------------	---	---

【地方創生推進】 半田市中心市街地活性化推進事業

(総合戦略 基本目標1～3)

事業概要	本市の中心市街地（名鉄知多半田駅～JR半田駅～半田運河の周辺）において、来街や活動の多様な目的にかなう場づくり・環境づくりを行い、中心市街地エリアの価値の向上を図る。中心市街地に創業等の様々なチャレンジができる機会や場所を設け、まちづくりの担い手の育成につなげていく。
主な取組	1. 中心市街地活性化事業 【基本目標1・施策Ⅰ・③持続可能な商業の振興】 令和6年5月に中心市街地活性化協議会を設立し、民と公で協議しながら中心市街地活性化基本計画を策定し具体事業の実践に向けた体制を構築した。 また、11月にココロリン（半田市創造・連携・実践センター）を設置し、産業人材育成の拠点として、創業への関心を高めるプログラムを実施し延べ212名の参加を促し、うち2件の屋号を持った活動開始につなげた。 さらに、知多半田駅前と半田運河で居場所づくりの実証実験、知多半田駅東ロータリーの改修に向けた基本構想の策定を行った。半田運河エリアでは交流拠点Lunga（小栗家住宅）を設置し、民主導の運営体制構築や、低未利用地調査、タウンミーティングを通して情報収集やネットワークづくりに寄与した。 2. 半田運河活性化推進事業 【基本目標2・施策Ⅰ・②回遊性の向上】 半田運河の景観や周辺観光施設、醸造の歴史・文化を活かしたイベントを充実させることにより、年間を通じた賑わいの創出を図る。四季を感じる装飾（風鈴等）を半六庭園に設置し、写真映えするスポットを創出する「半田運河誘客スポット設置事業」を実施し、半田運河の魅力の発信を強化した。 半田運河周辺のブランディングを行ったことにより観光入込客数の増加につながり、広く市民や観光客に半田運河の魅力を発信することができた。 3. シティプロモーション推進事業【基本目標3・施策Ⅲ・②まちのイメージの向上】 本市の都市イメージの向上と市民の愛着の醸成を図るための施策を展開する。都市イメージの向上につながる取組として、テレビやラジオなどのメディアへ直接アプローチするプロモート活動など情報発信を強化した。
事業費 (交付額)	65,789,800円(32,894,900円) ※交付率1/2

交付金対象事業の各種指標（KPI）

No.	指 標	2023年度 (R5) 当初値	2024年度 (R6) 実績値 (目標値)	2025年度 (R7) 実績値 (目標値)	2026年度 (R8) 実績値 (目標値)
①	地域の人口	5,325人	5,305人 (5,335人)	- (5,346人)	- (5,367人)
②	「創造・連携・実践センター」の 利用者の創業件数	0件	2件 (3件)	- (13件)	- (31件)
③	「創造・連携・実践センター」の来館者数 (カフェ、コワーキングスペース)	0人	10,360人 (3,900人)	- (8,500人)	- (9,200人)
④	名鉄知多半田駅～半田運河周辺の流動人口 (JR半田駅から半径450m圏内の1日平均歩行者数)	6,917人	6,985人 (7,017人)	- (7,167人)	- (7,367人)

有識者による効果検証

外部組織による本事業の評価	①	選択肢 (2択)	①地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ②地方版総合戦略のKPI達成に有効とはいえない
---------------	---	-------------	--

【デジタル実装】__スマート窓口事業

事業概要 ・ 主な経費	各種行政手続きにおいては、住民が庁舎に来庁して手続きを行う必要があり、また、何枚もの申請書に手書きで記入するため、手続きにおける住民の負担は大きい。行政手続きの様々な場面における住民負担の軽減を目的として、以下の「申請書作成システム」及び「オンライン申請サービス」を導入した。
	1. 申請書作成システム マイナンバーカードの読取や情報入力により申請書への手書きが不要となるシステムを市民課窓口等に導入し、来庁時の行政手続きにおける住民負担の軽減を図った。 (主な経費) ・窓口設置端末(PC、タブレット)、プリンター等の購入費用：16,986千円 ・システム構築費用：25,410千円 2. オンライン申請サービス マイナンバーカード認証機能やキャッシュレス決済機能をもつ電子申請サービスを導入し、来庁せずに手続きを行える環境を整え、行政手続きにおける住民負担の軽減を図った。 (主な経費) ・オンライン申請サービス利用料：2,138千円
事業費 (交付額)	47,880,298円 (23,940,149円) ※交付率1/2

交付金対象事業の各種指標 (K P I)

No.	指 標	2022年度 (R4) 当初値	2023年度 (R5) 実績値 (目標値)	2024年度 (R6) 実績値 (目標値)	2025年度 (R7) 実績値 (目標値)
①	申請書作成システムの対象の手続数 (1. 申請書作成システム)	-	100件 (30件)	100件 (50件)	- (100件)
②	行政手続きのための在庁時間の削減率 (1. 申請書作成システム)	-	年度末導入の ため未測定 (3.0%)	▲56.6% (5.0%)	- (10.0%)
③	オンライン申請サービスの対象の手続数 (2. オンライン申請サービス)	-	576件 (300件)	674 (800件)	- (1,300件)
④	窓口来庁者数の削減率 (2. オンライン申請サービス)	-	年度末導入の ため未測定 (1.0%)	4.7% (3.0%)	- (5.0%)

有識者による効果検証

外部組織による本事業の評価	①	選択肢 (2 択) ①地方創生の推進や住民サービスの向上に有効であった ②地方創生の推進や住民サービスの向上に有効とはいえない
---------------	---	---

【デジタル実装】 徴収事務改善事業

税を始めとした公金の口座振替における納付者の利便性向上を図るため、「Web口座振替受付システム」を構築した。

また、小中学校における学校徴収金の管理や口座振替の効率化・保護者の利便性向上を図るため、「学校徴収金管理システム」を構築した。

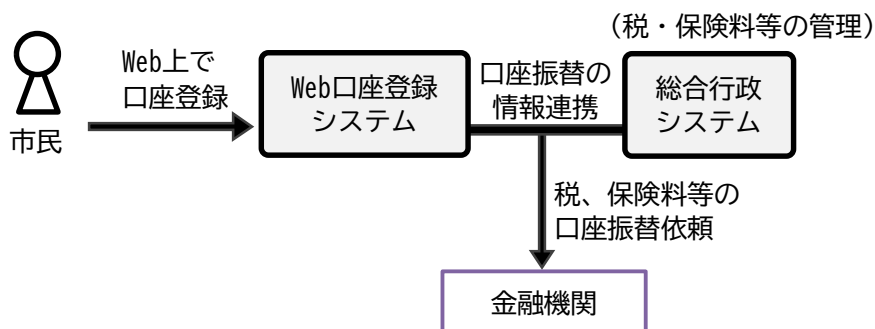
1. Web口座振替受付システム

本システムの導入・普及により、PCやスマホで市専用のWebページ上で、いつでも公金振替等の情報の登録ができ、かつ、口座振替に係る押印も不要となった。

税（市県民税、固定資産税など）や保険料（介護保険料など）、市営墓地管理料、保育料（保育園・幼稚園など）、小中学校徴収金、上・下水道料金を対象とした。

（主な経費）

- ・システム構築費用：5,318千円
- ・連携する本市の基幹システム（税情報等の管理システム）の改修費：14,758千円



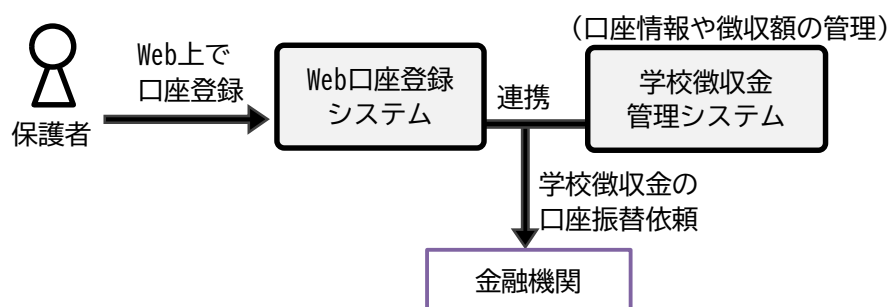
2. 学校徴収金管理システム

本システムの導入により、保護者の口座情報や学校徴収金（給食費など）の徴収額を管理する機能をもち、前述のWeb口座振替システムと連携して口座振替を行えるようになった。

また、口座振替データを金融機関へオンラインで伝送することにより、これまで小中学校ごとに行っていた口座振替依頼を行政が一括して行えるようになった。

（主な経費）

- ・システム構築委託（サーバーの整備含む）：36,069千円



事業概要
・
主な経費

事業費
(交付額)

59,184,684円 (29,592,342円) ※交付率1/2

交付金対象事業の各種指標（KPI）

No.	指 標	2022年度 (R4) 当初値	2023年度 (R5) 実績値 (目標値)	2024年度 (R6) 実績値 (目標値)	2025年度 (R7) 実績値 (目標値)
①	We b口座振替申請割合	-	4.4% (25%)	12.5% (30%)	- (35%)
②	市税等口座振替率	-	40.69% (40%)	39.88% (41%)	- (42%)
③	学校給食費及び学校徴収金における 振替不能件数	-	年度未導入の ため未測定 (1,100件)	2,092件 (800件)	- (700件)
④	収納率	-	99.80% (99.82%)	99.78% (99.83%)	- (99.84%)
⑤	半田市で子育てをよかった、 子育てしたいと思う市民の割合	-	35.3% (58%)	48.4% (59%)	- (60%)
⑥	新導入システムの保護者満足度	-	(2025年度にアンケート実施予定)		- (70%)

有識者による効果検証

外部組織による本事業の評価	①	選択肢 (2択) ①地方創生の推進や住民サービスの向上に有効であった ②地方創生の推進や住民サービスの向上に有効とはいえない
---------------	---	--